

## 定点把握疾病（五類感染症）の状況

※令和2(2020)年は53週、令和3(2021)年は52週での比較です。

### 定点当たり報告数の比較について

報告数を比較する際には、結核・感染症発生動向調査情報の月報における解析情報の表現と同様に、その比の値により、以下のような表現で記載します。

#### 報告数の比の値

1.50倍以上	大幅に高い水準
1.25～1.49倍	かなり高い水準
1.10～1.24倍	やや高い水準
0.90～1.09倍	ほぼ同様の水準
0.75～0.89倍	やや低い水準
0.50～0.74倍	かなり低い水準
0.49倍以下	大幅に低い水準

### 警報・注意報レベルの基準値

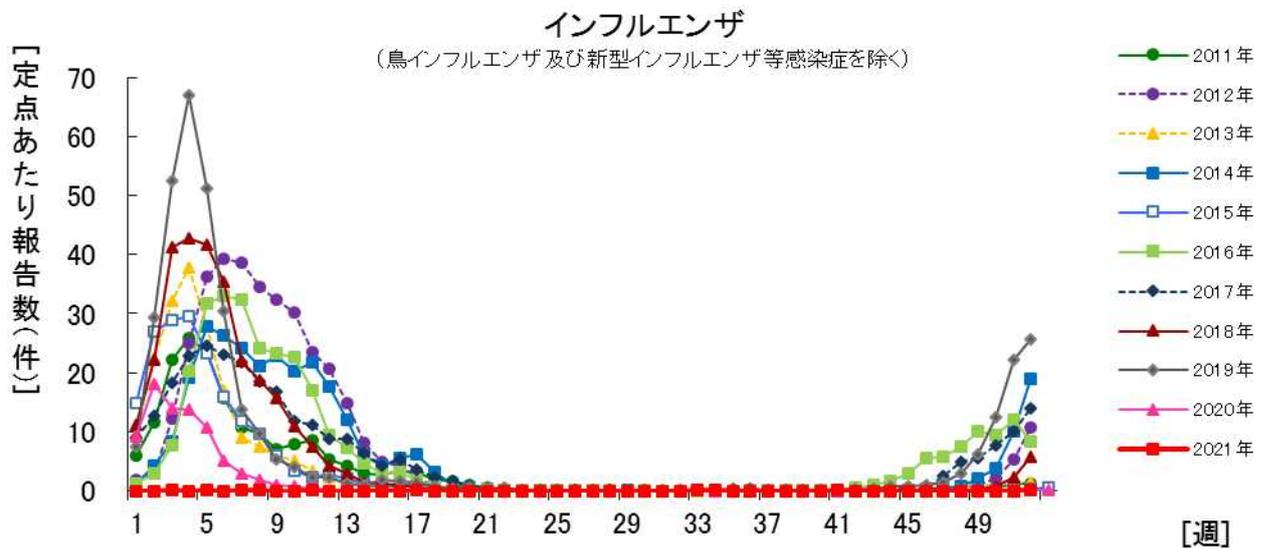
疾病名	警報		注意報
	開始基準	終息基準	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

### 1. インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

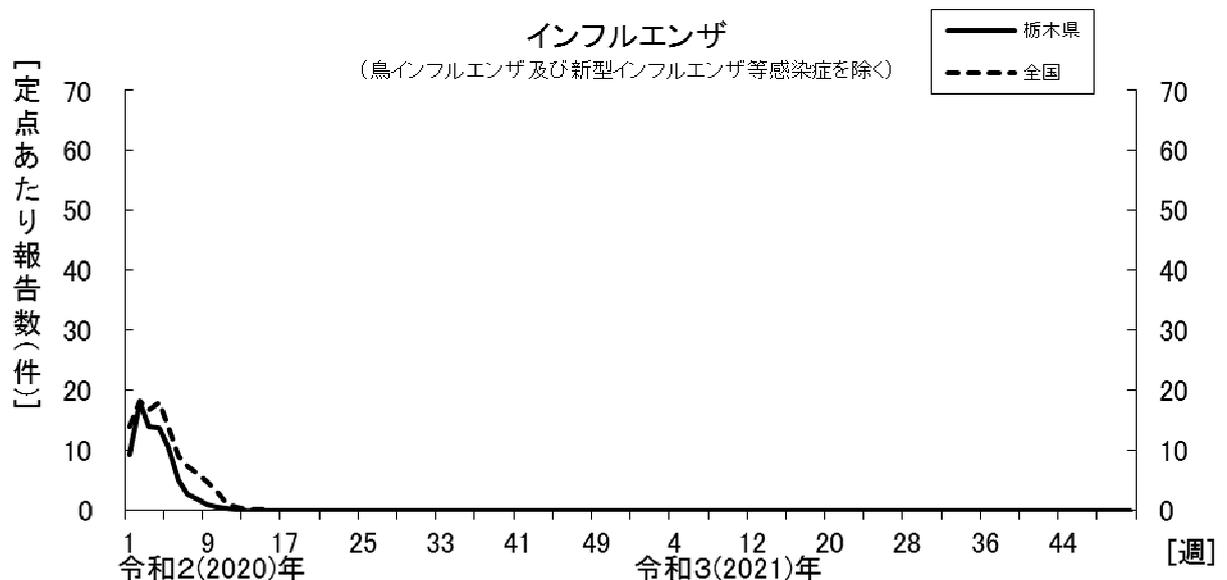
令和3（2021）年の総報告数は11件で、令和2（2020）年（5,950件）と比較すると大幅に減少しました。20-21シーズンは、ほとんど発生がなく、シーズンを通じて大きな流行は見られませんでした。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.14、全国0.22で、全国と比較して0.66倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



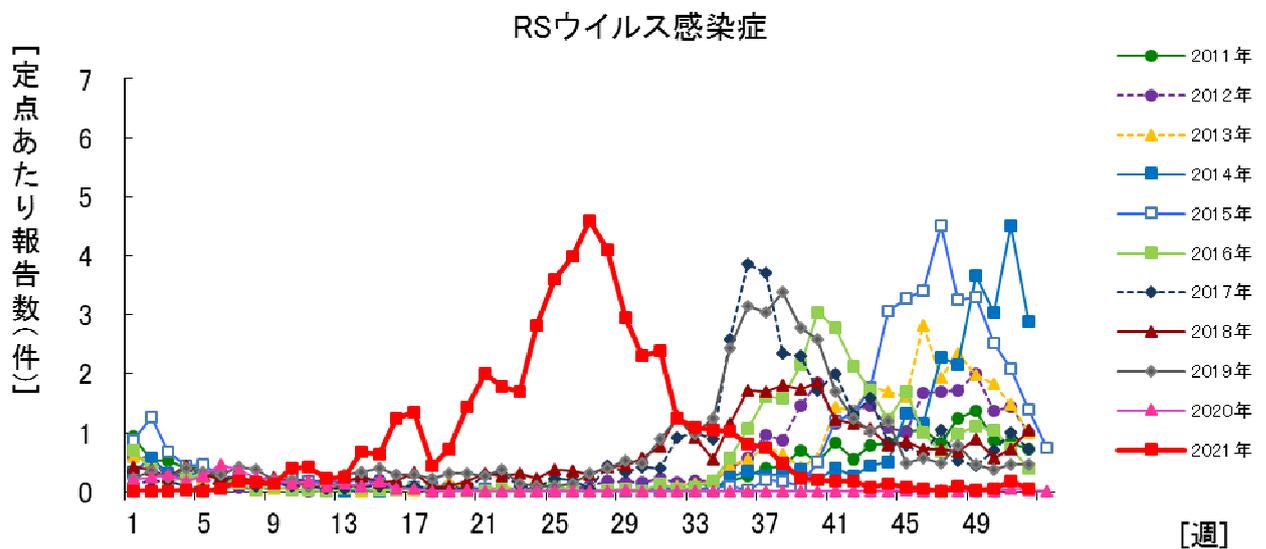
## 2. RSウイルス感染症

令和3(2021)年の総報告数は2,325件で、令和2(2020)年(169件)と比較すると13.76倍と大幅に増加しました。

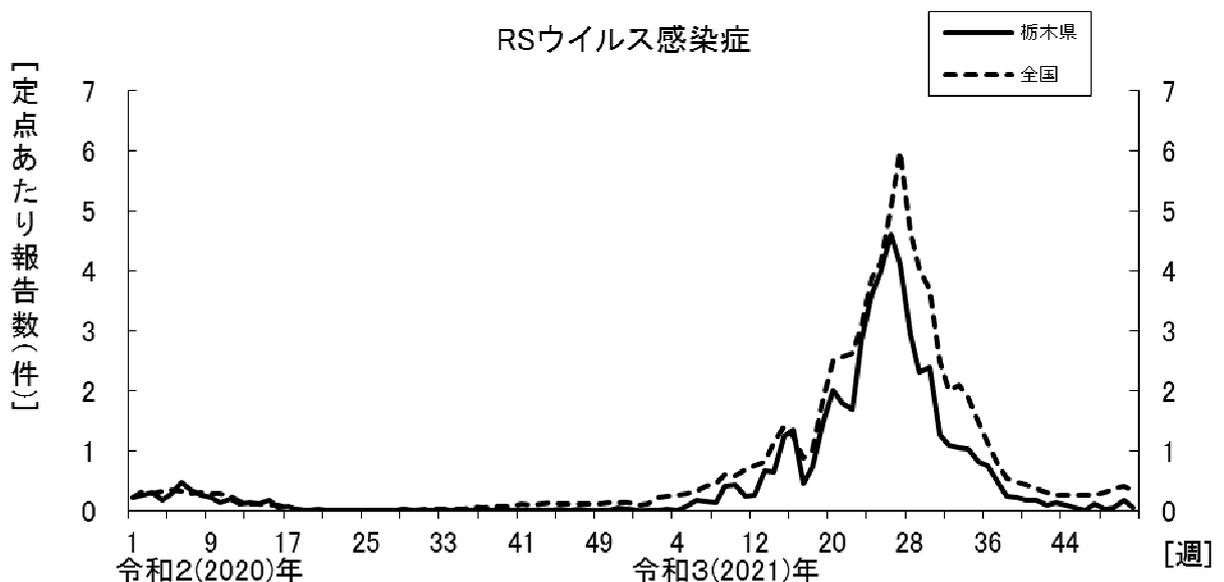
第27週(7/5~7/11)をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0~1歳が51.5%、2~9歳が48.0%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県48.44、全国71.98で、全国と比較して0.67倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



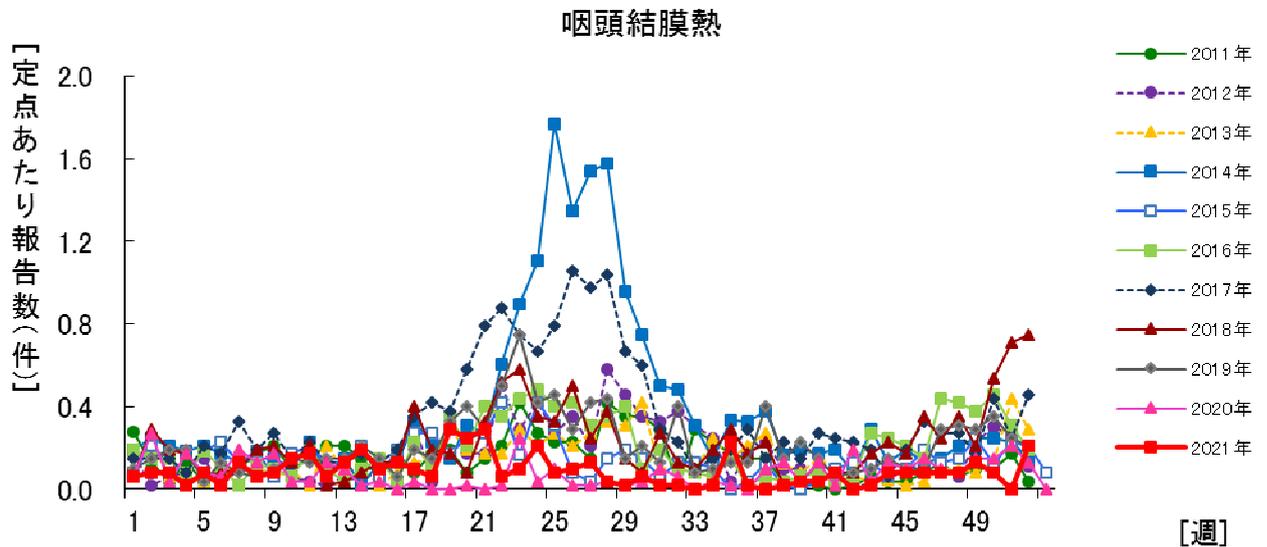
### 3. 咽頭結膜熱

令和3(2021)年の総報告数は226件で、令和2(2020)年(203件)と比較すると1.11倍とやや増加しました。

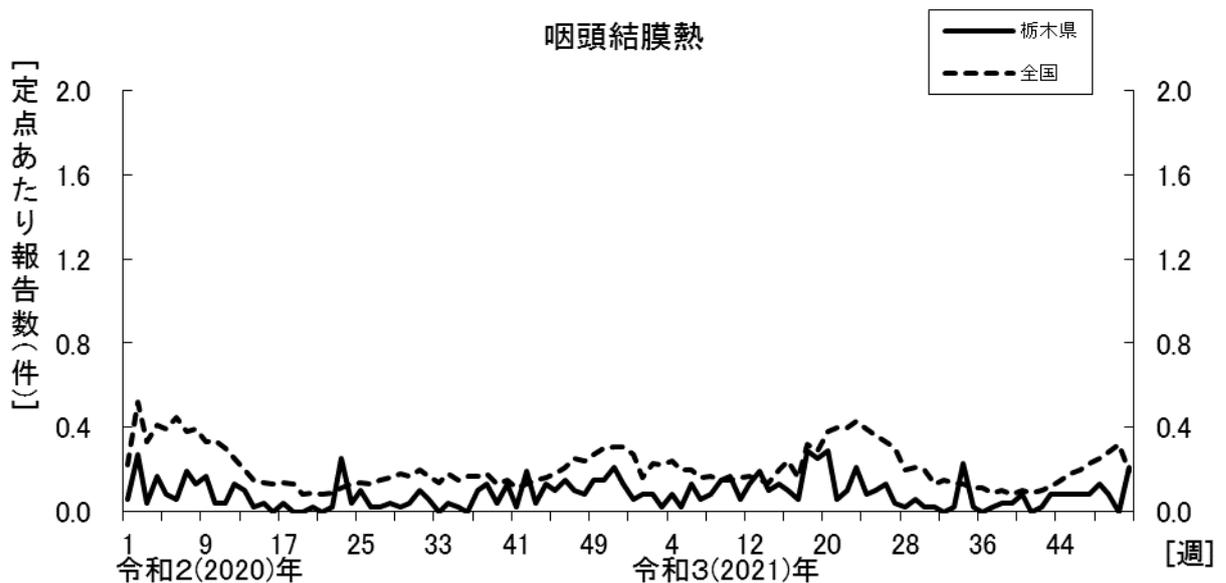
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が90.3%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県4.71、全国10.81で、全国と比較して0.44倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



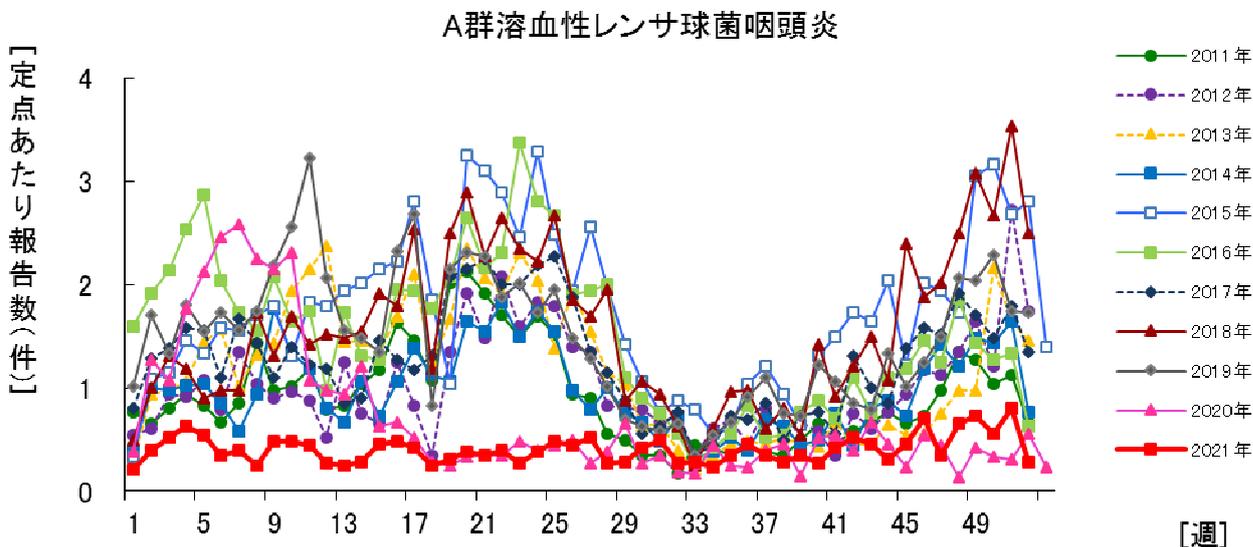
#### 4. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

令和3(2021)年の総報告数は1,020件で、令和2(2020)年(1,812件)と比較すると0.56倍とかなり減少しました。

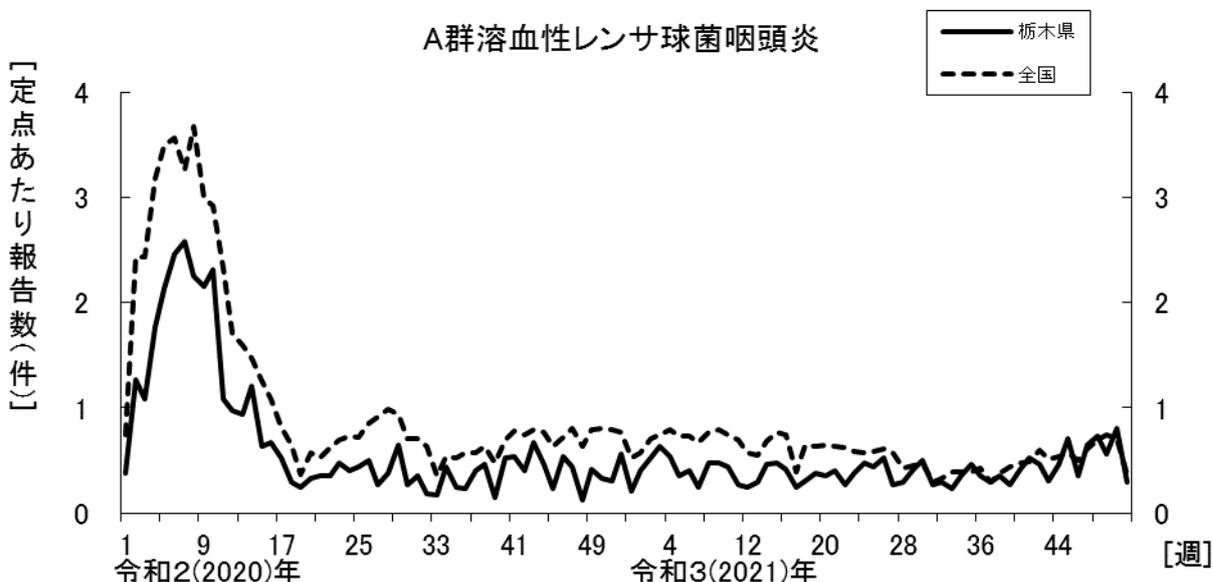
年間を通じて報告がありました。年齢階級別では、0～4歳が47.1%、5～9歳が39.1%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県21.25、全国29.84で、全国と比較して0.71倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



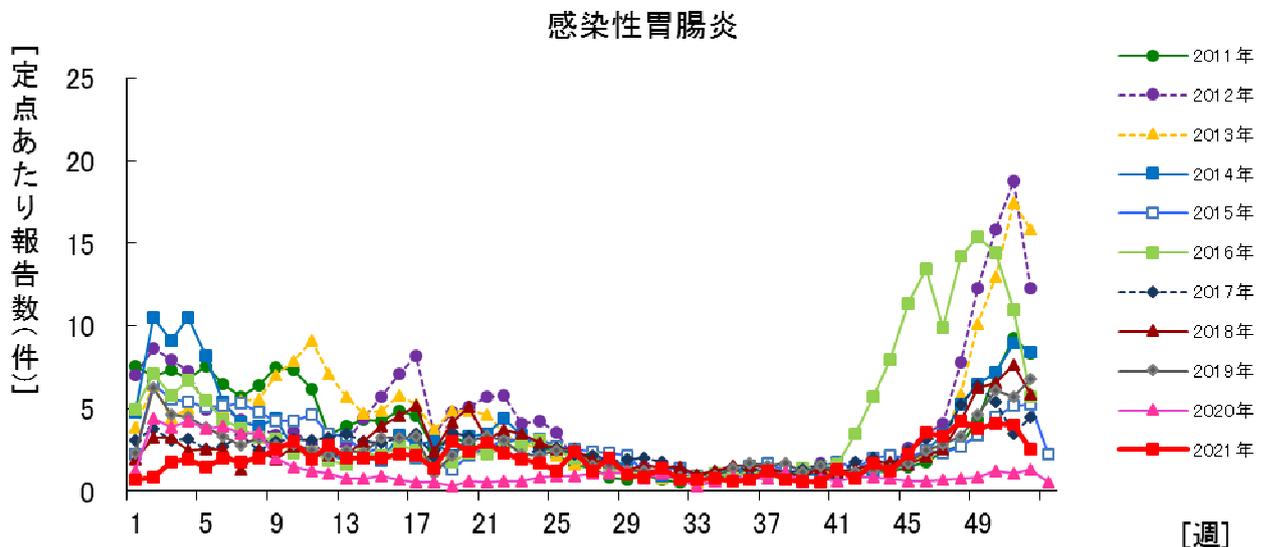
## 5. 感染性胃腸炎

令和3(2021)年の総報告数は4,715件で、令和2(2020)年(3,200件)と比較すると1.47倍とかなり増加しました。

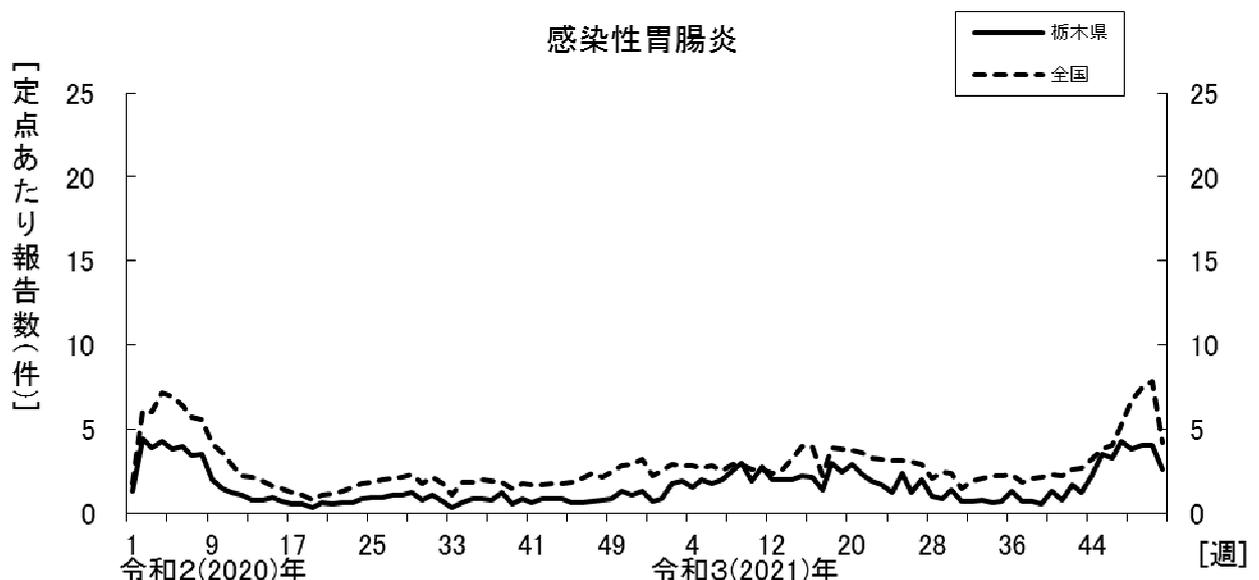
第48週(11/29~12/5)をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0~4歳が55.7%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県98.23、全国161.67で、全国と比較して0.61倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



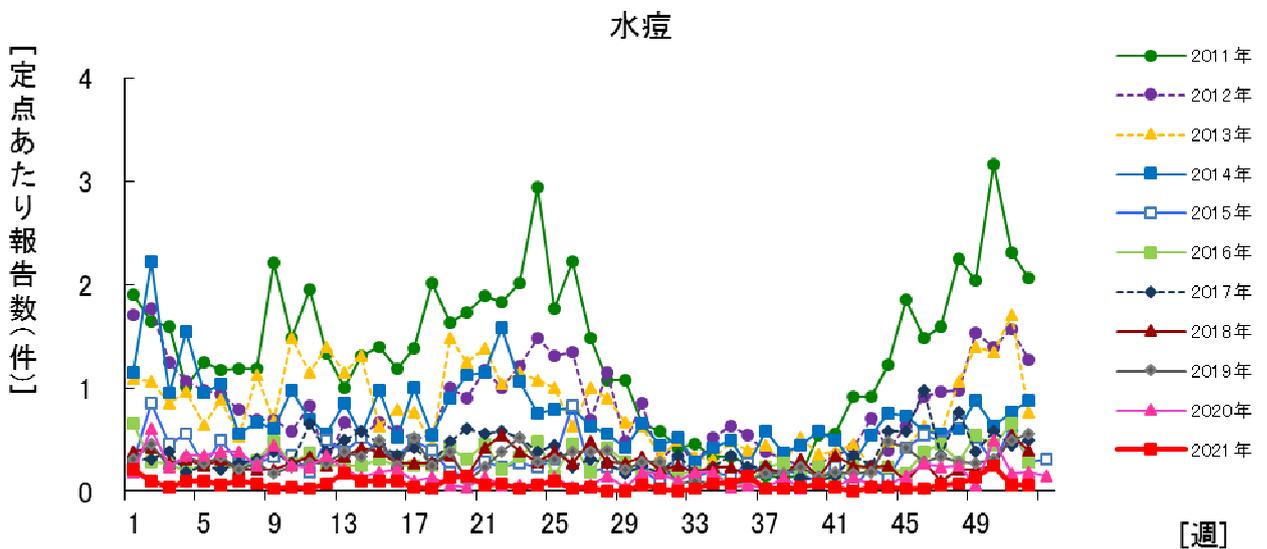
## 6. 水痘

令和3(2021)年の総報告数は172件で、令和2(2020)年(443件)と比較すると0.39倍と大幅に減少しました。

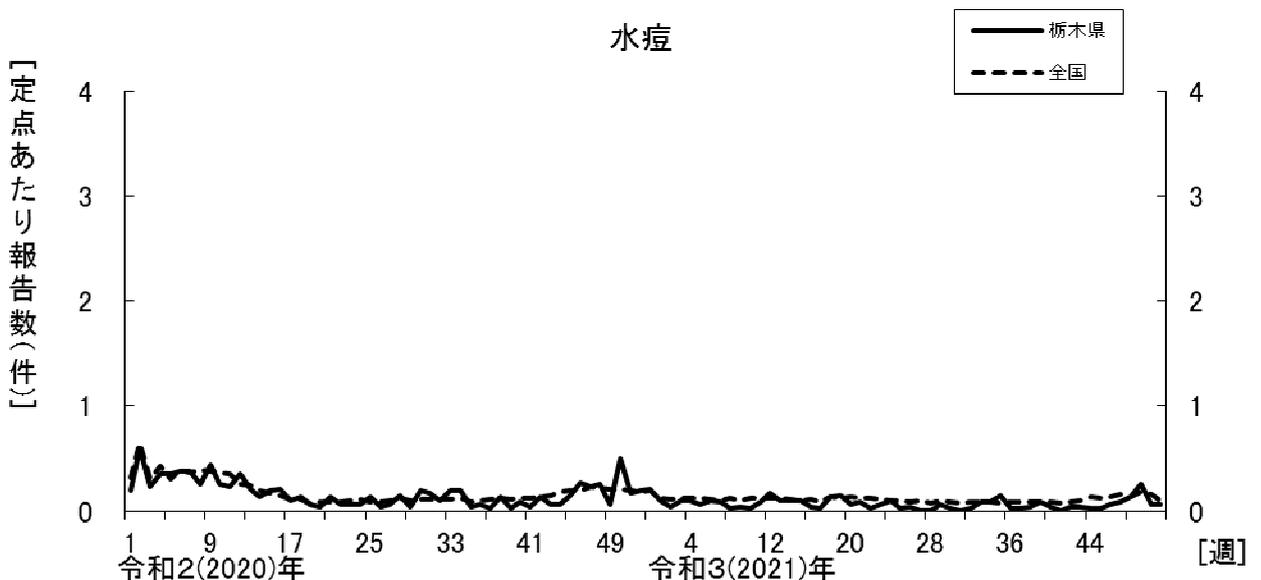
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が27.9%、5～9歳が51.2%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県3.58、全国5.64で、全国と比較して0.64倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



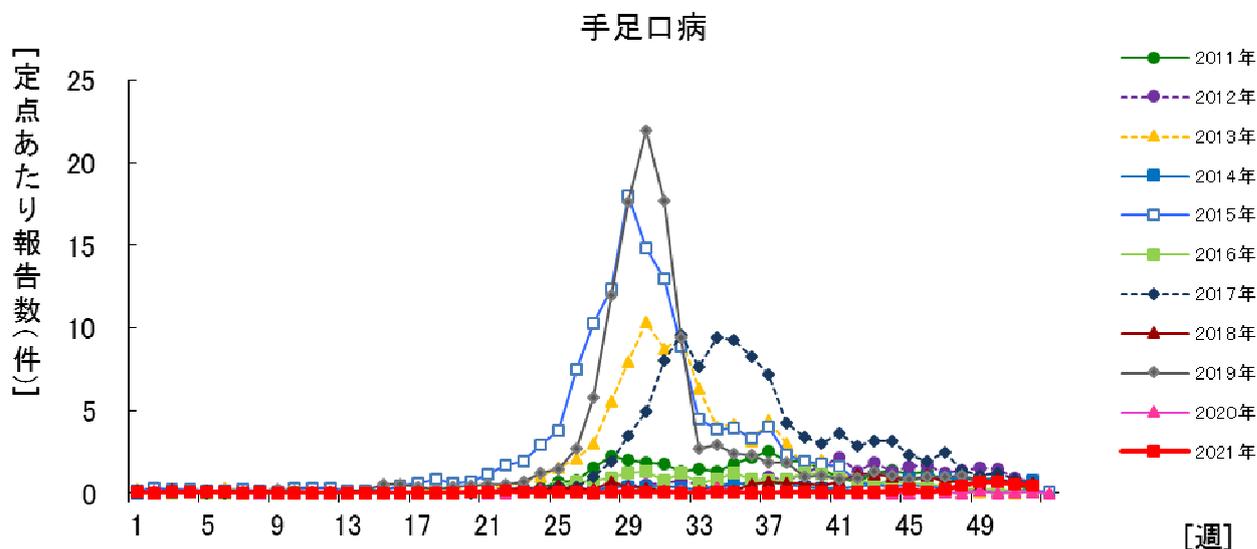
## 7. 手足口病

令和3(2021)年の総報告数は256件で、令和2(2020)年(159件)と比較すると1.61倍と大幅に増加しました。

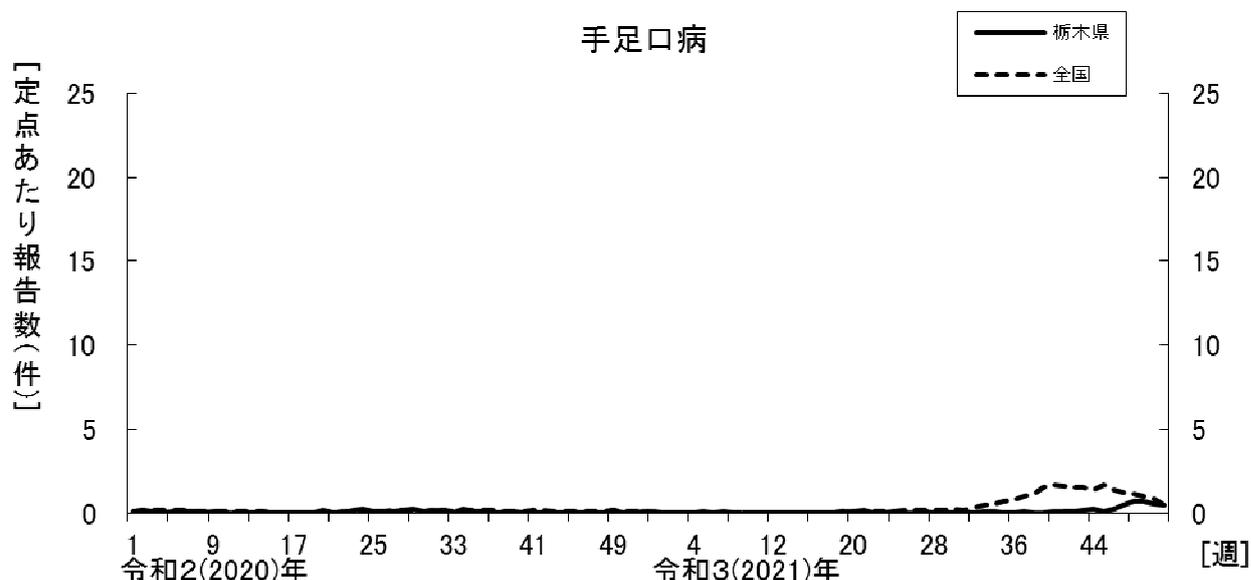
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が91.8%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県5.33、全国24.47で、全国と比較して0.22倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



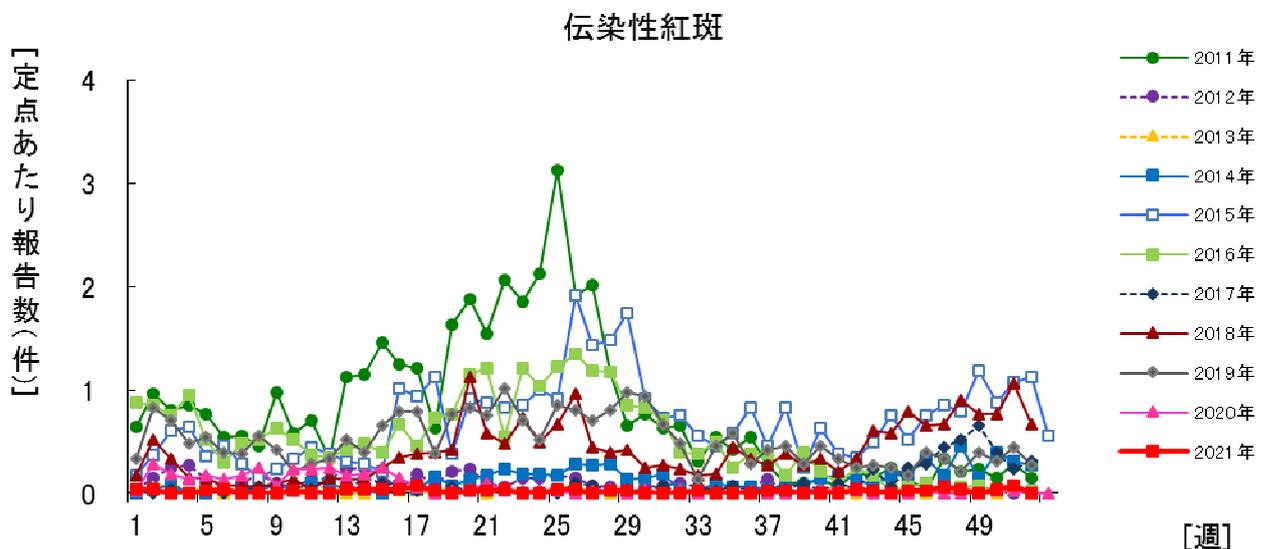
## 8. 伝染性紅斑

令和3(2021)年の総報告数は50件で、令和2(2020)年(168件)と比較すると0.30倍と大幅に減少しました。

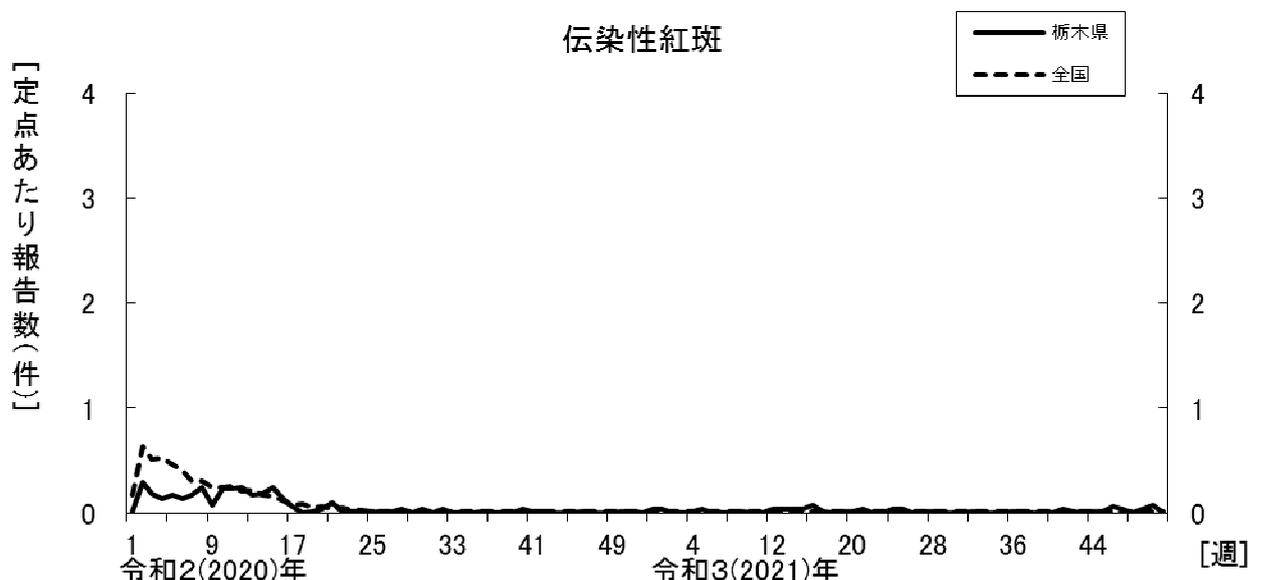
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が66.0%、5～9歳が28.0%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県1.04、全国0.70で、全国と比較して1.49倍とかなり高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



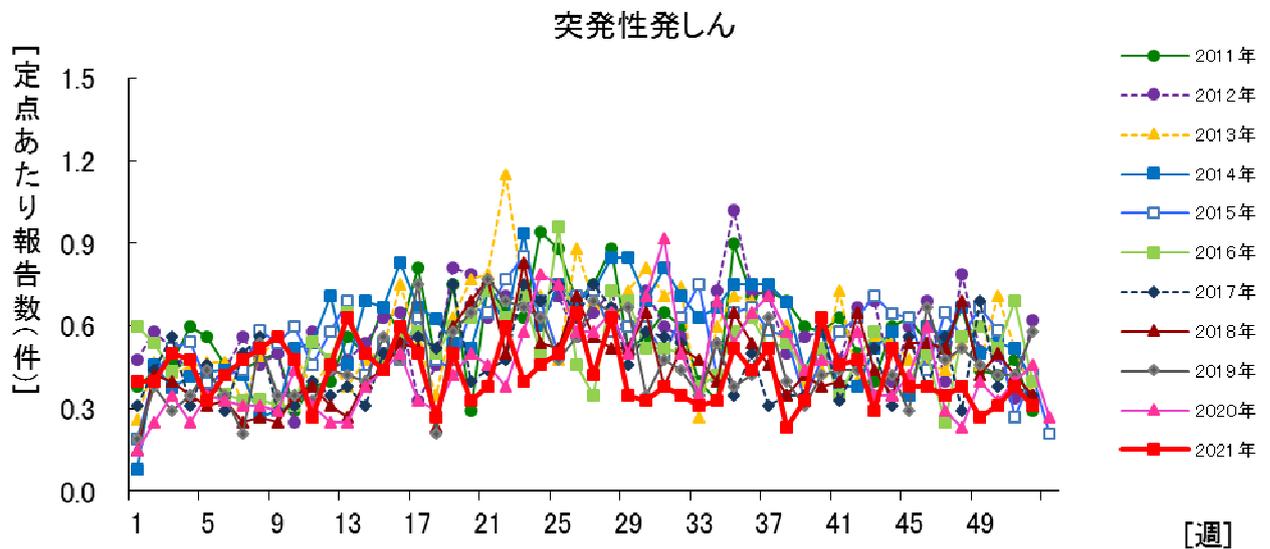
## 9. 突発性発しん

令和3(2021)年の総報告数は1,071件で、令和2(2020)年(1,137件)と比較すると0.94倍とほぼ同様でした。

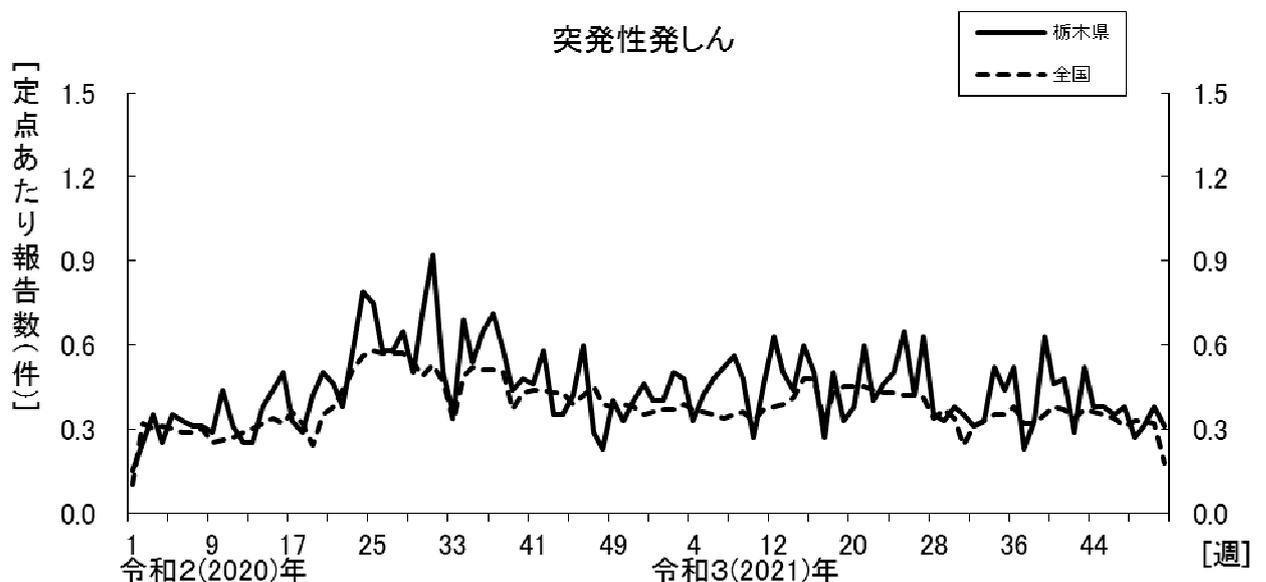
年間を通じて報告がありました。年齢階級別では、1歳以下が84.4%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県22.31、全国19.08で、全国と比較して1.17倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



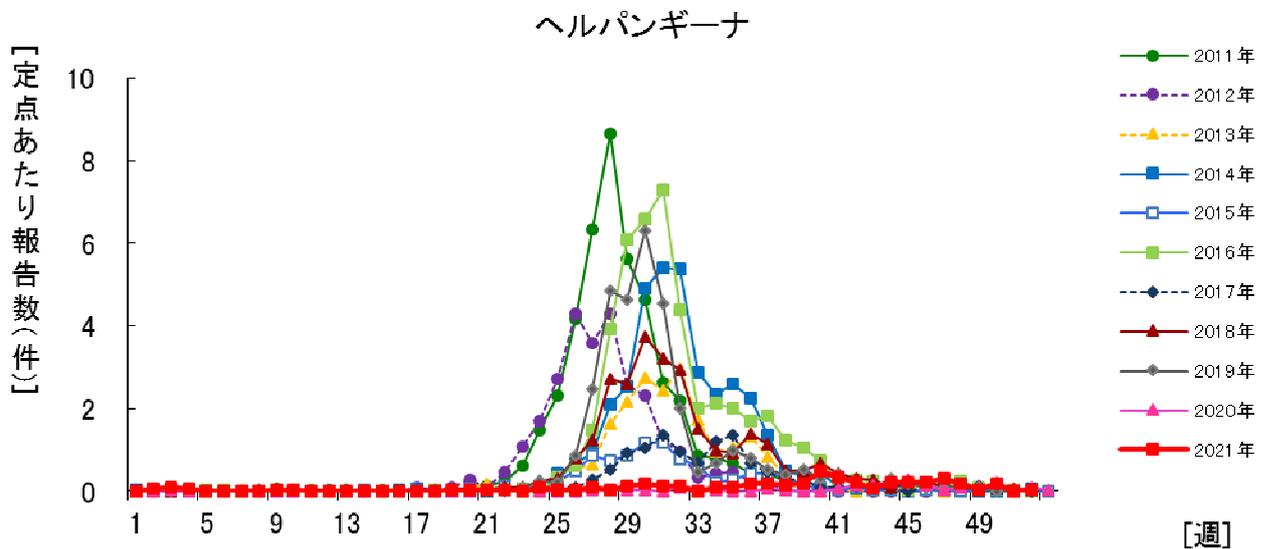
## 10. ヘルパンギーナ

令和3(2021)年の総報告数は216件で、令和2(2020)年(100件)と比較すると2.16倍と大幅に増加しました。

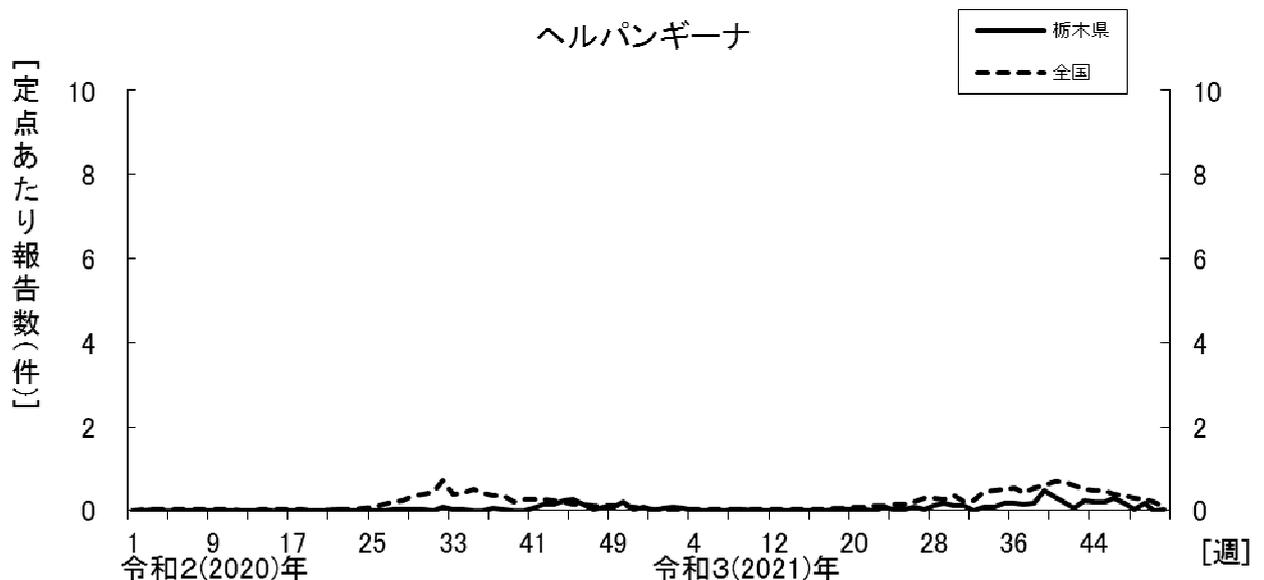
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が85.2%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県4.50、全国11.87で、全国と比較して0.38倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



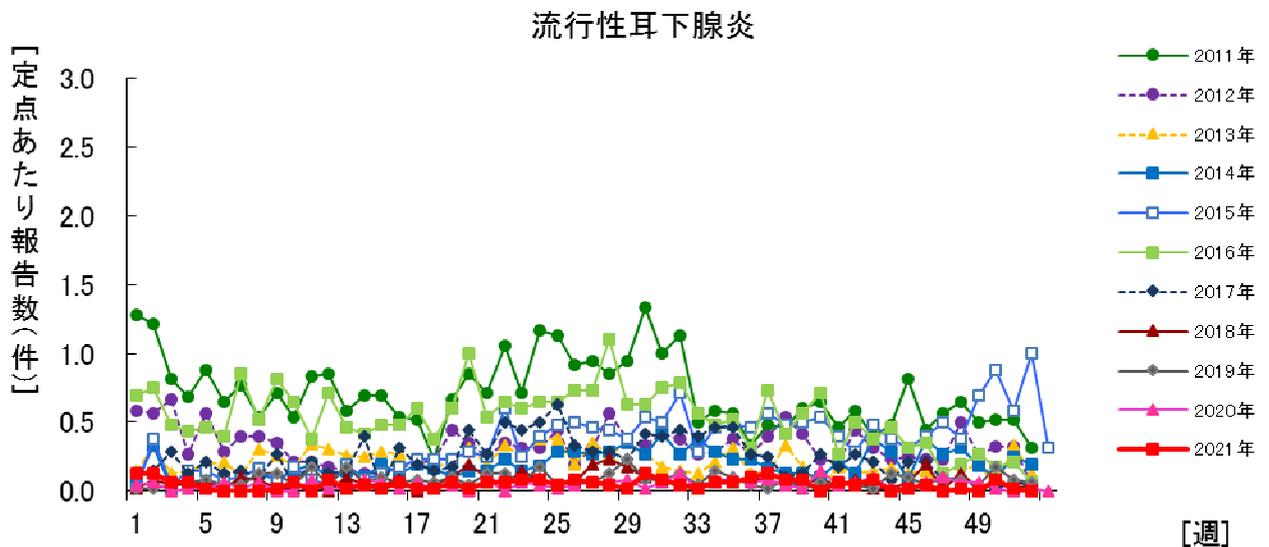
## 11. 流行性耳下腺炎

令和3(2021)年の総報告数は122件で、令和2(2020)年(120件)と比較すると1.02倍とほぼ同様でした。

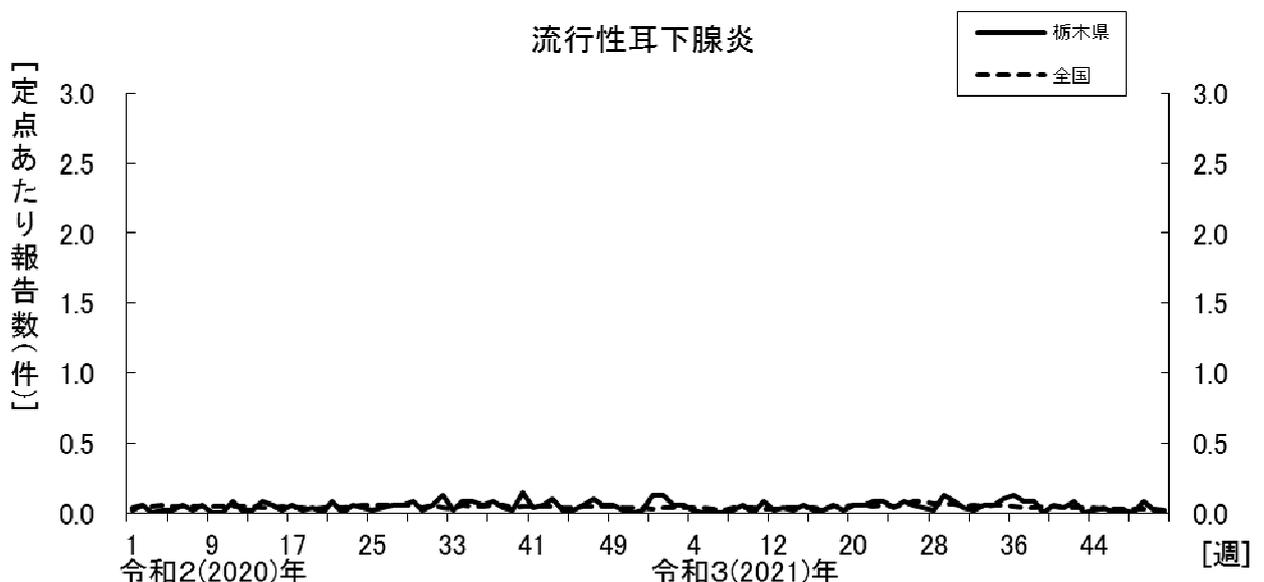
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、5～9歳が64.8%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県2.54、全国2.32で、全国と比較して1.10倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

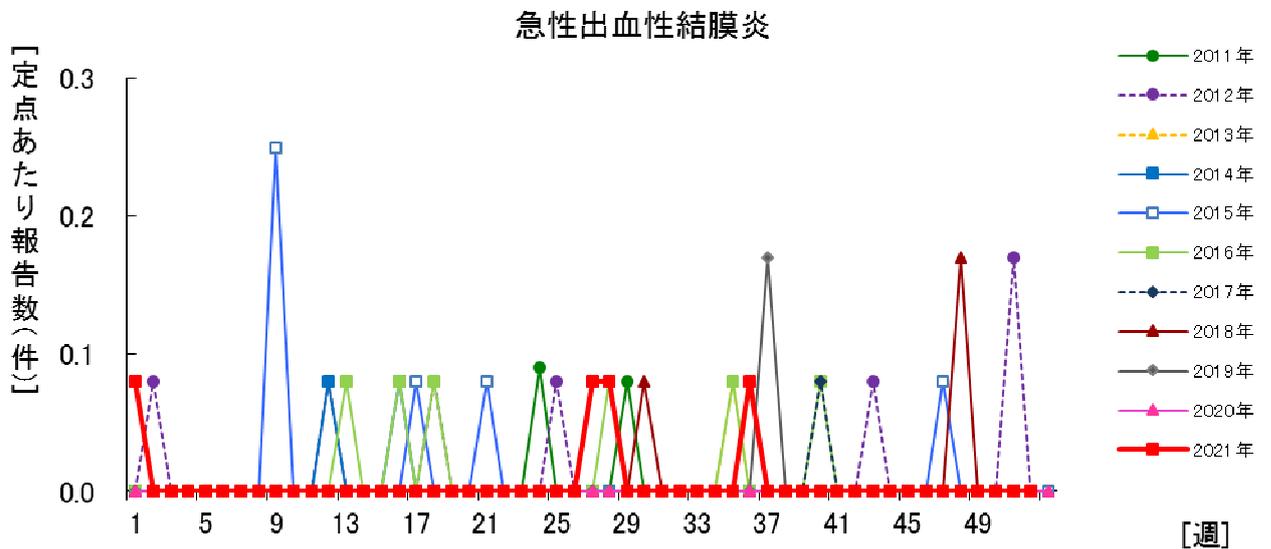


## 12. 急性出血性結膜炎

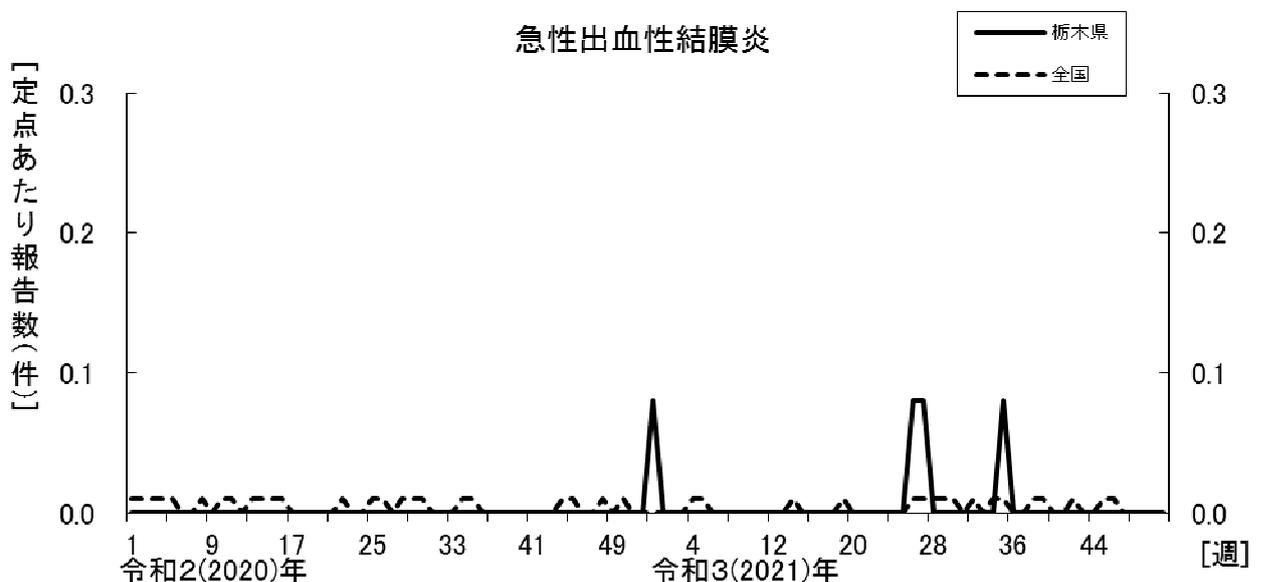
令和3(2021)年の総報告数は4件でした(令和2(2020)年は0件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.33、全国0.20で、全国と比較して0.42倍と大幅に低い水準とした

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

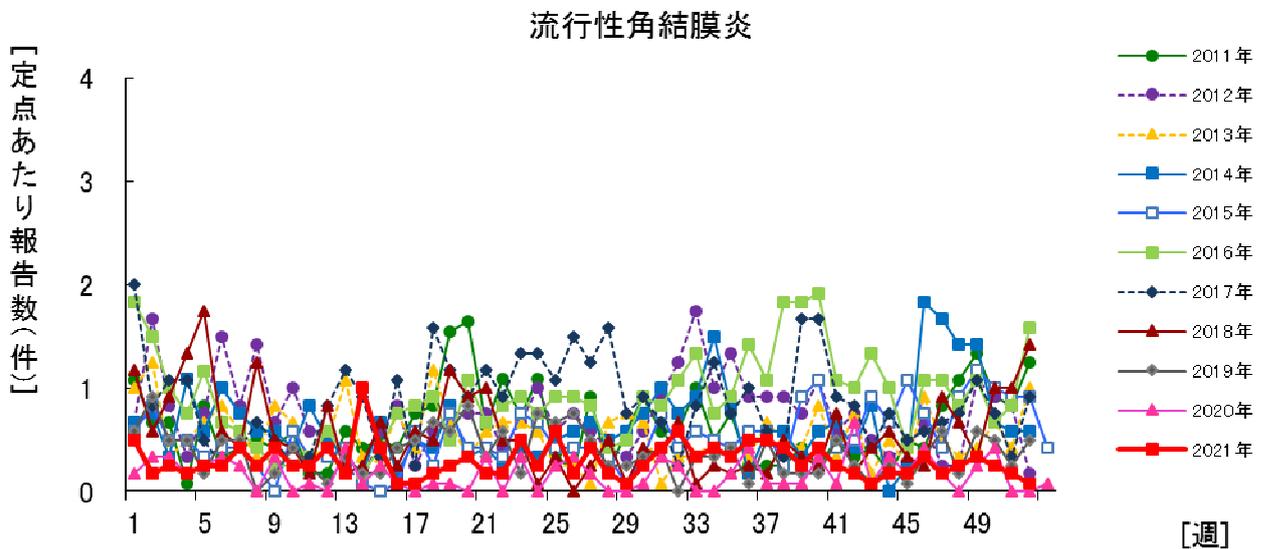


### 13. 流行性角結膜炎

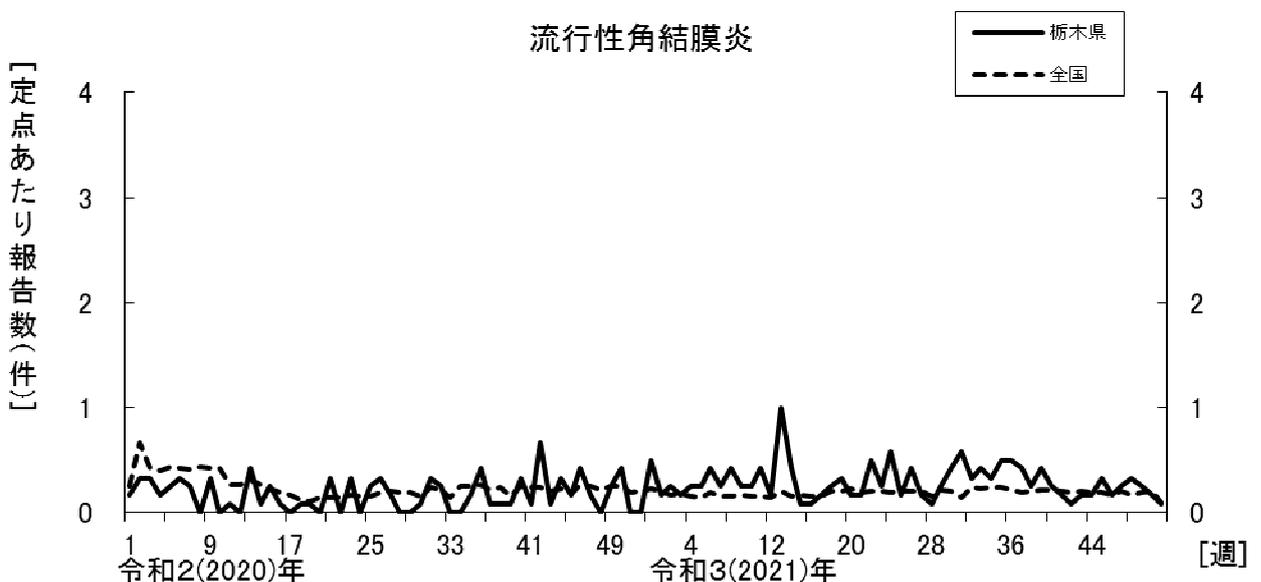
令和3(2021)年の総報告数は185件で、令和2(2020)年(110件)と比較すると1.68倍と大幅に増加しました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県15.42、全国9.85で、全国と比較して1.57倍と大幅に高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

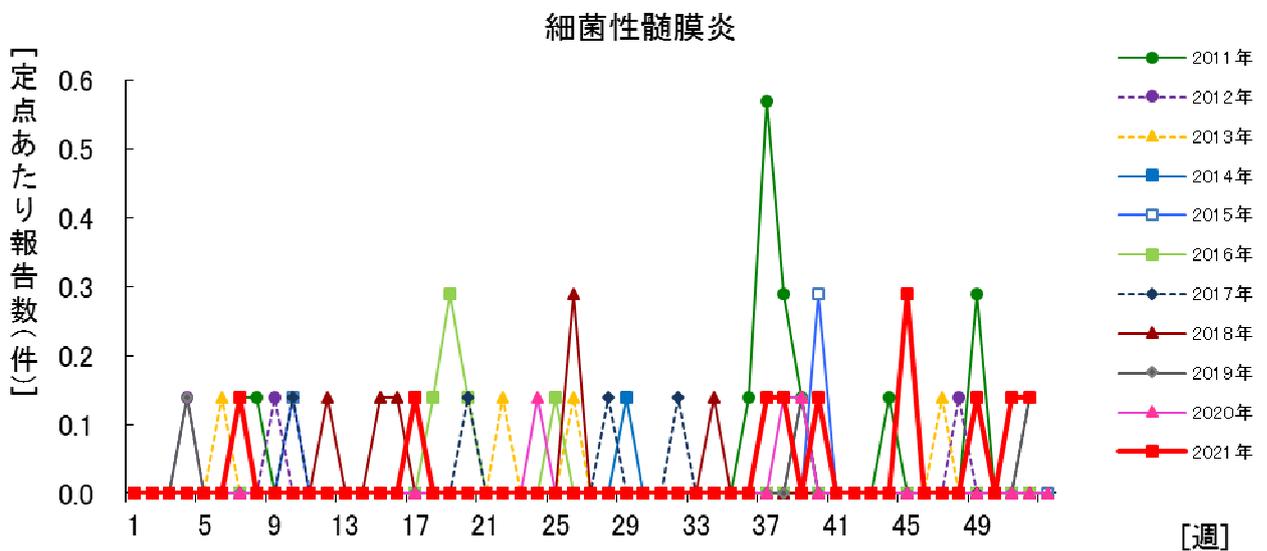


## 14. 細菌性髄膜炎

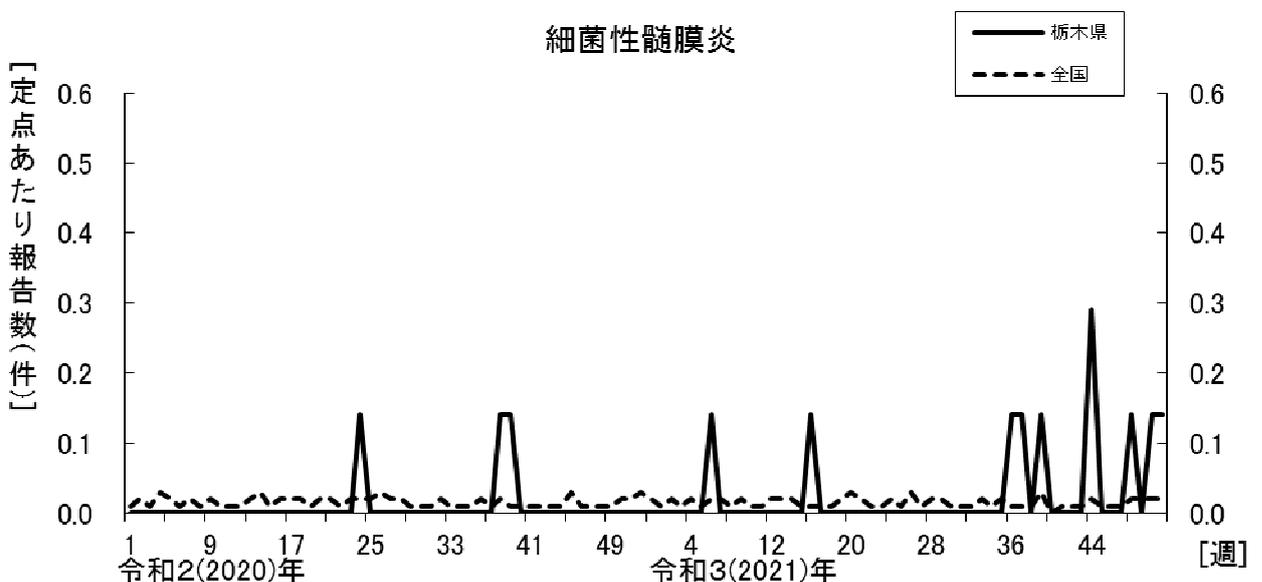
令和3(2021)年の総報告数は10件でした(令和2(2020)年は3件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県1.43、全国0.77で、全国と比較して1.86倍と大幅に高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

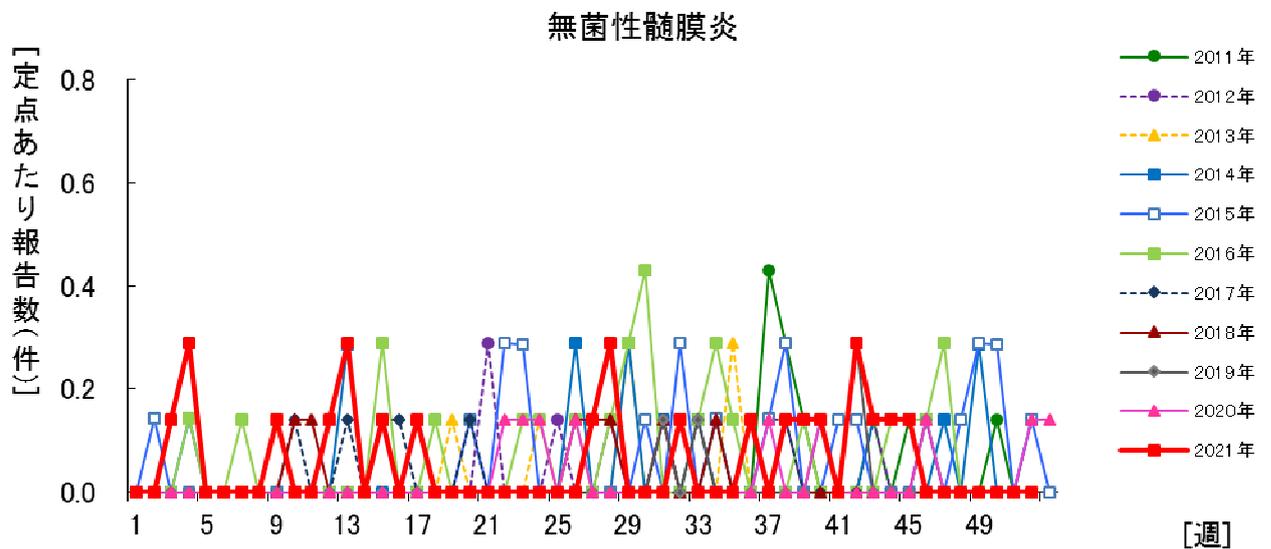


## 15. 無菌性髄膜炎

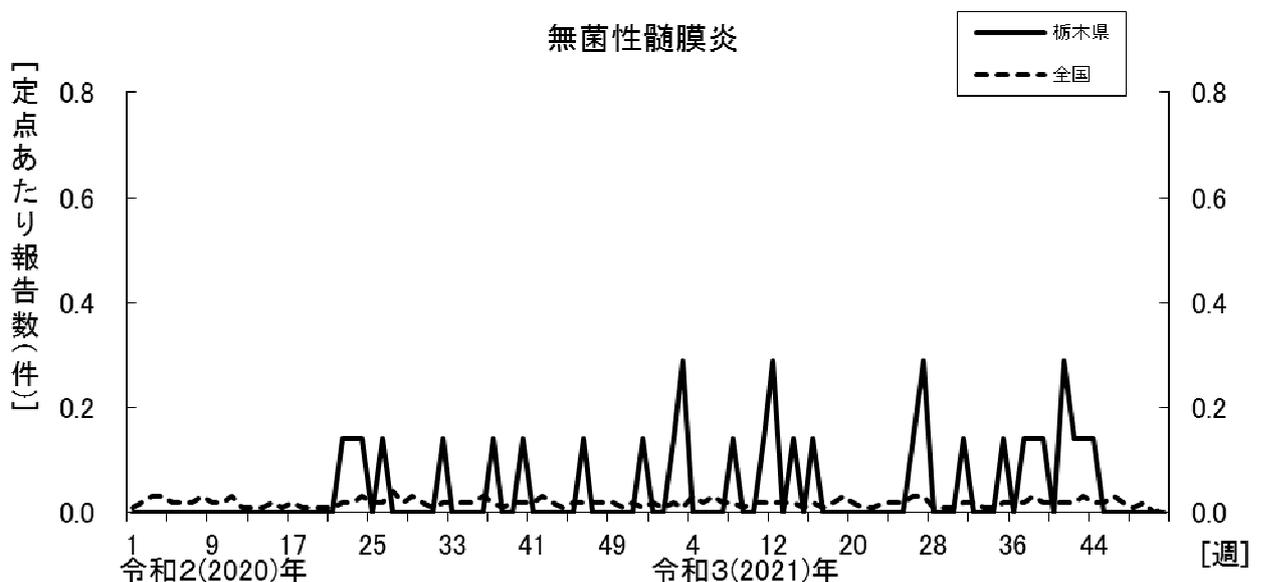
令和3(2021)年の総報告数は22件でした(令和2(2020)年は10件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県3.14、全国0.96で、全国と比較して3.27倍と大幅に高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



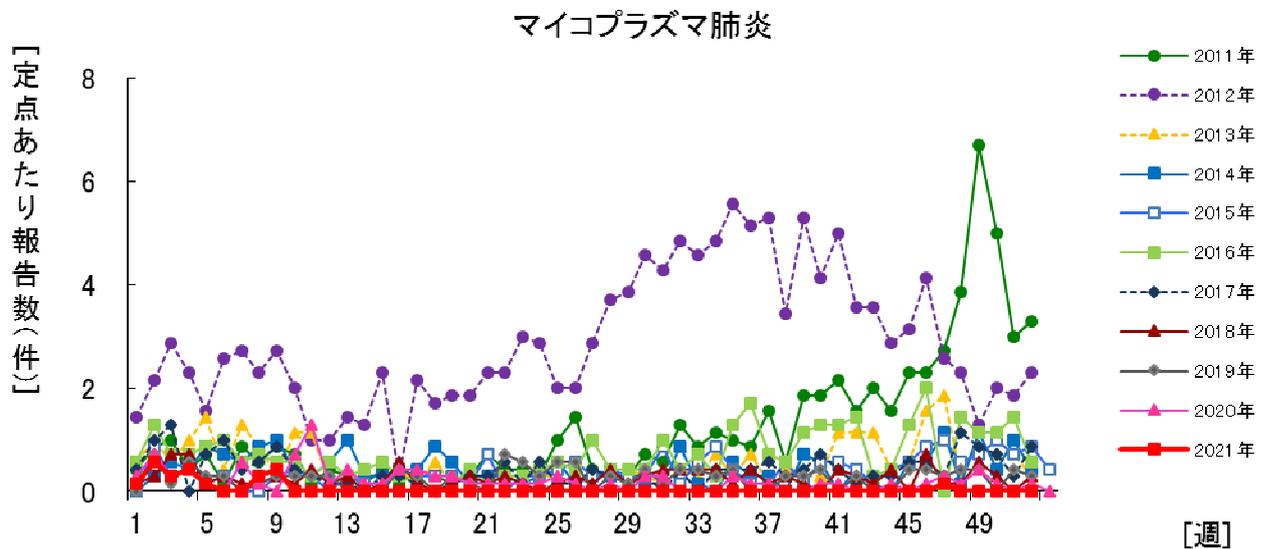
## 16. マイコプラズマ肺炎

令和3(2021)年の総報告数は17件で、令和2(2020)年(77件)と比較すると0.22倍と大幅に減少しました。

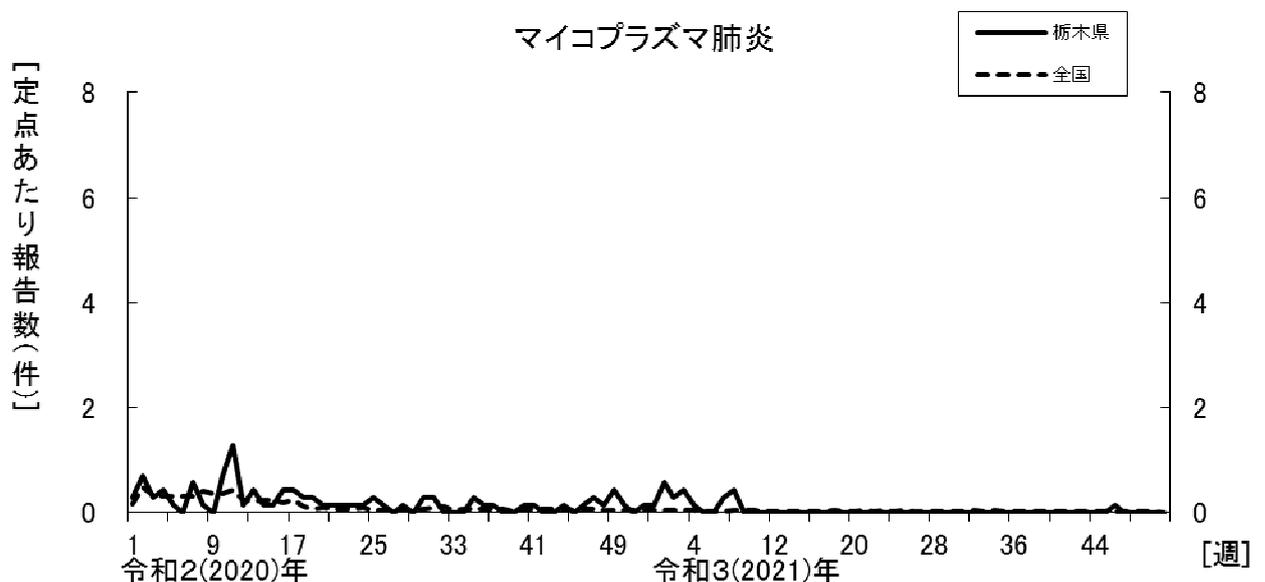
年齢階級別では、70歳代以上が41.2%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県2.43、全国1.39で、全国と比較して1.75倍と大幅に高い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）

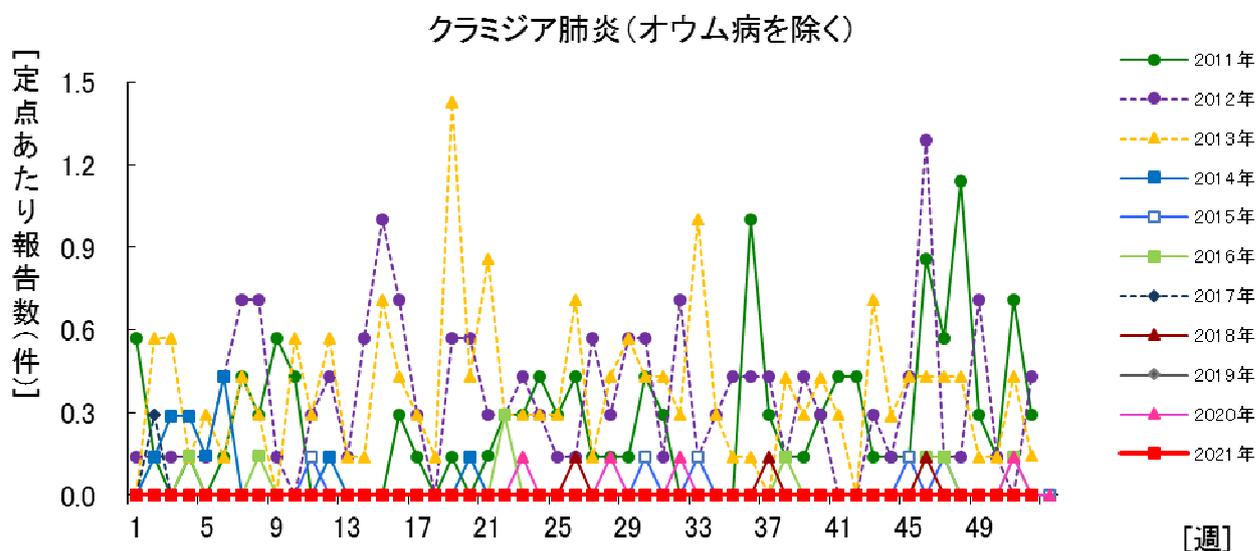


## 17. クラミジア肺炎（オウム病を除く）

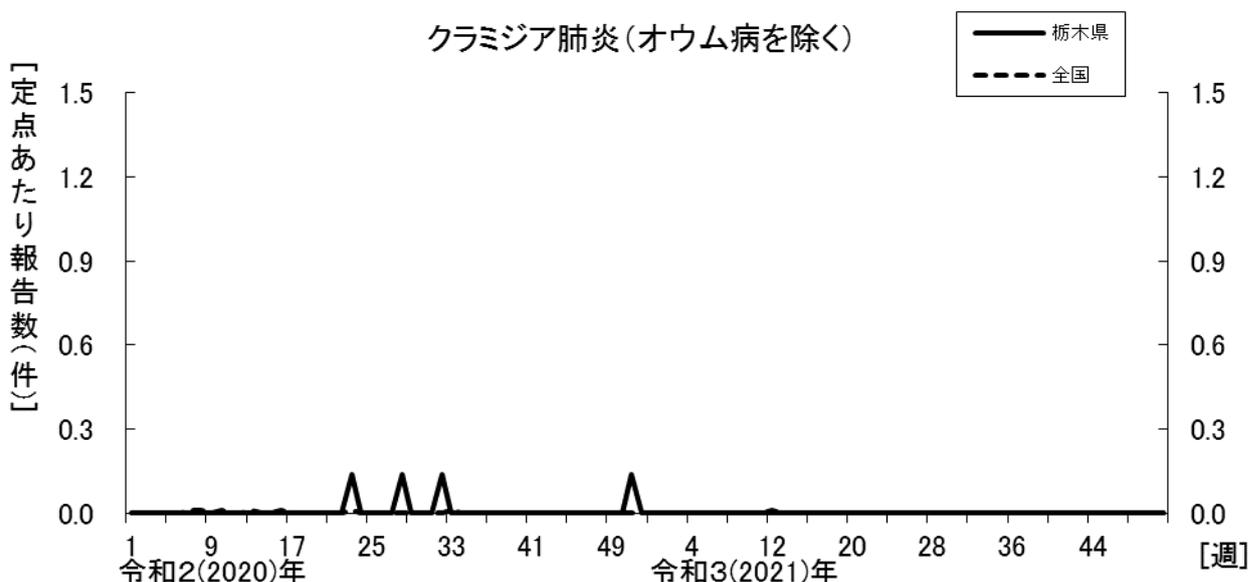
令和3（2021）年の総報告数は0件でした（令和2（2020）年は4件）。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.00、全国0.05で、大きな流行は見られませんでした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）

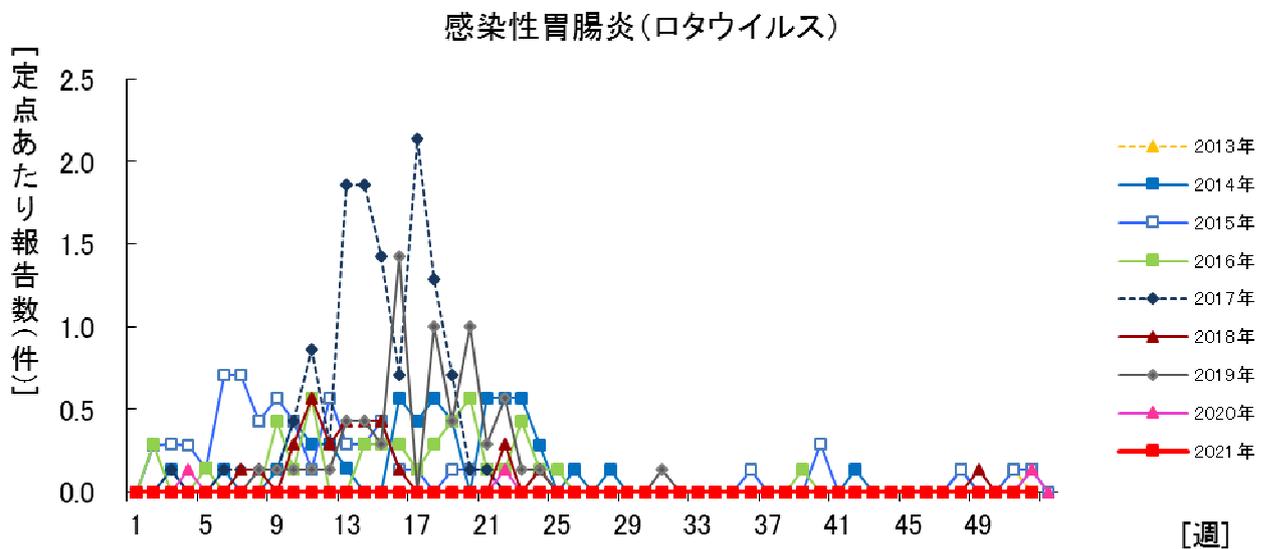


## 18. 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

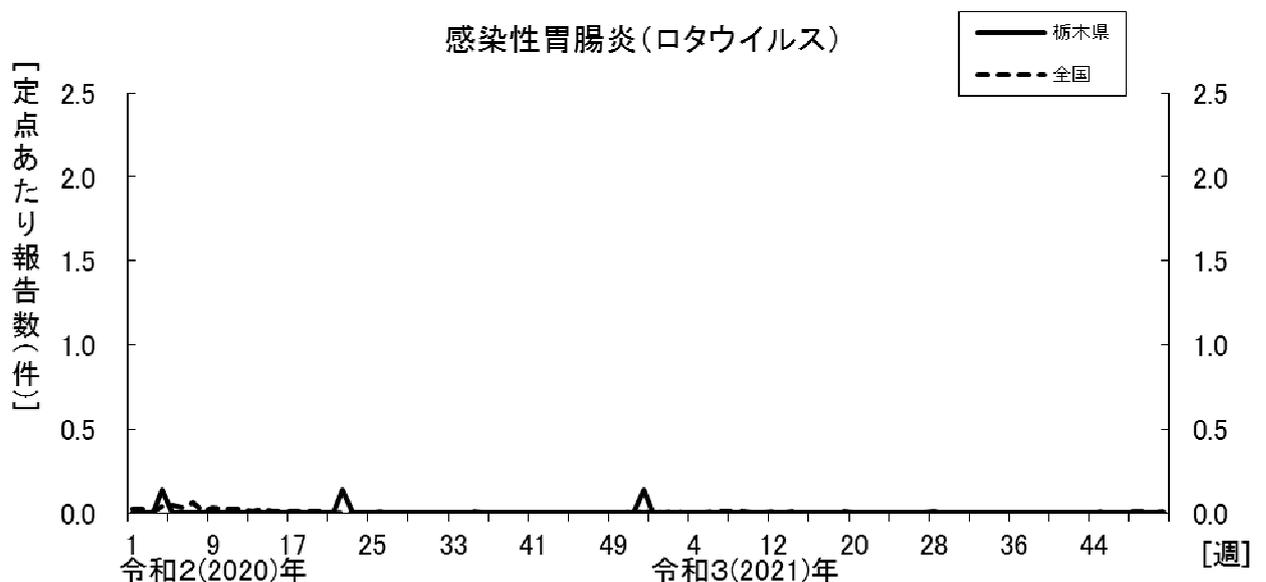
令和3（2021）年の総報告数は0件でした。（令和2（2020）年は3件）。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.00、全国0.19で、大きな流行は見られませんでした。

定点あたり報告数の動向（過去8年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



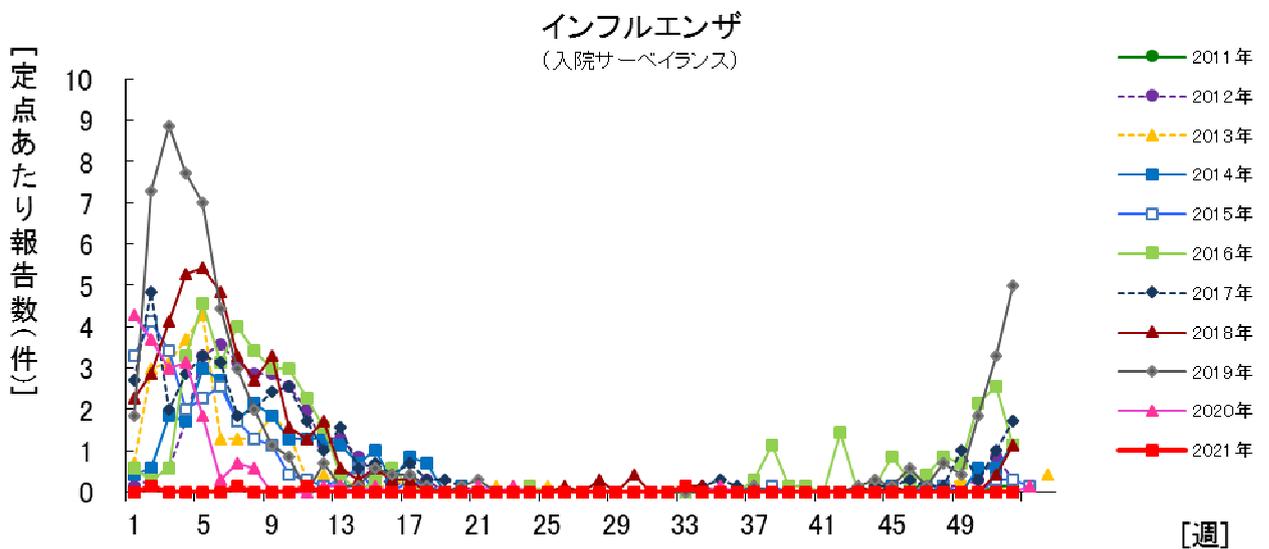
## 19. インフルエンザ（入院サーベイランス）

令和3（2021）年の総報告数は4件で、令和2（2020）年（131件）と比較すると0.03倍と大幅に減少しました。

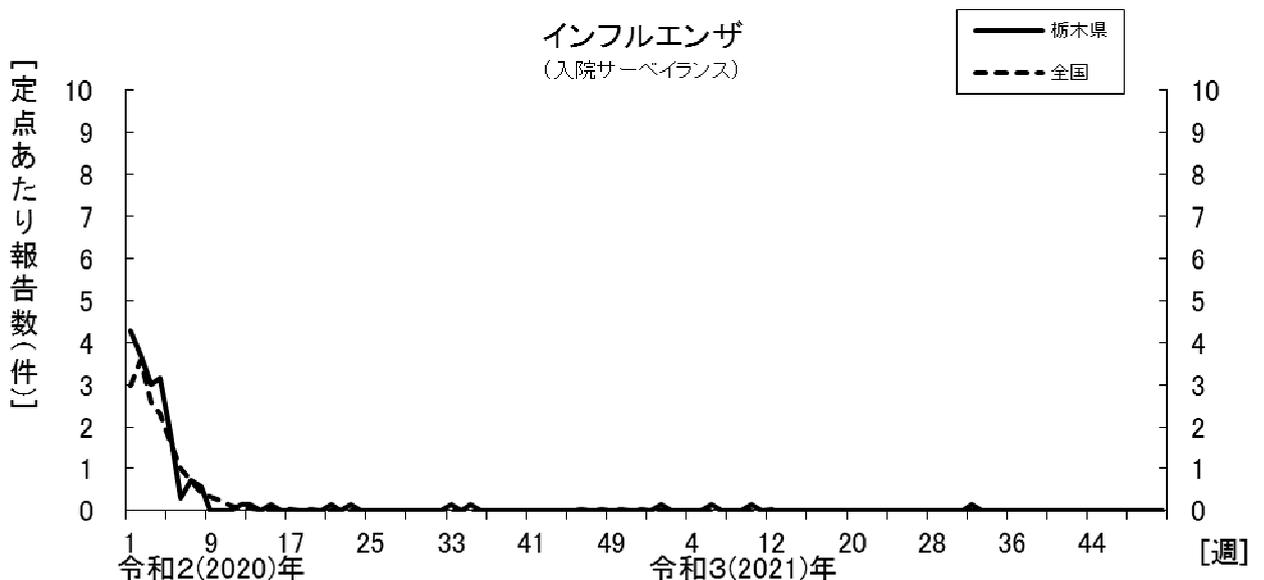
年齢階級別では、0～9歳1件、60歳代1件、90歳代2件でした。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.57、全国0.20で、大きな流行は見られませんでした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）





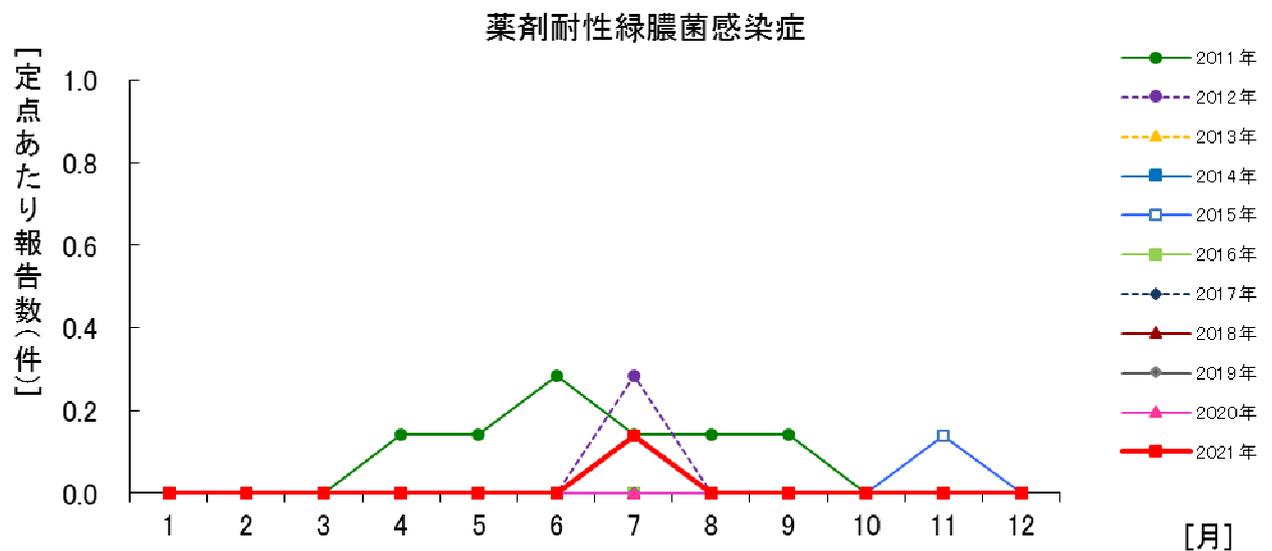


## 22. 薬剤耐性緑膿菌感染症

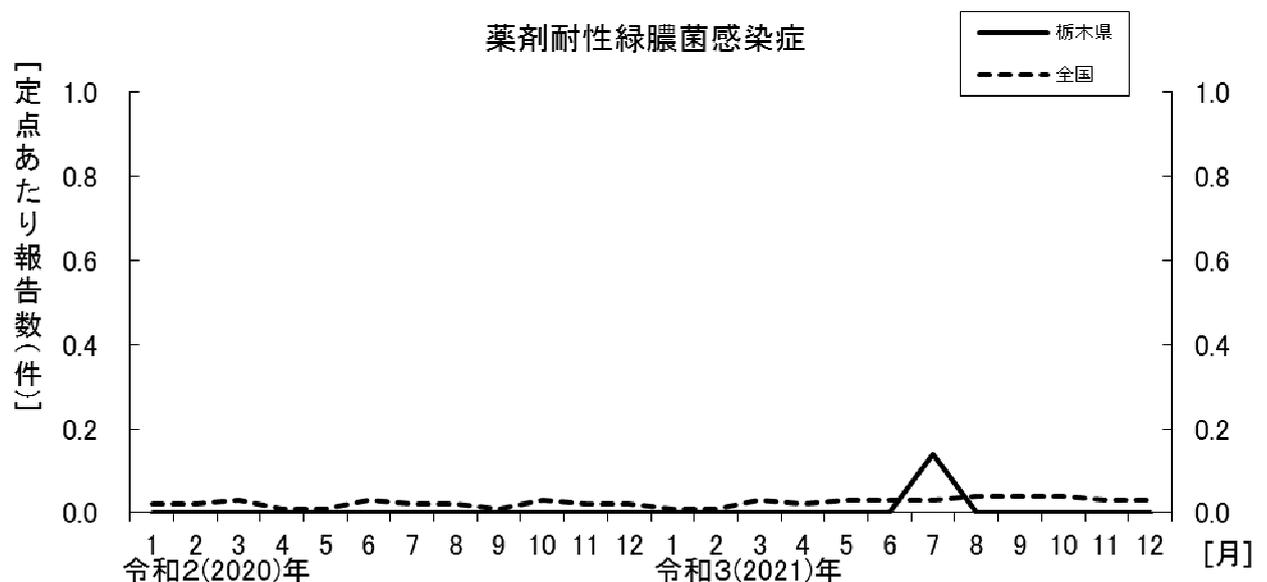
令和3(2021)年の総報告数は1件でした(令和2(2020)年は0件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.14、全国0.33で、大きな流行は見られませんでした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



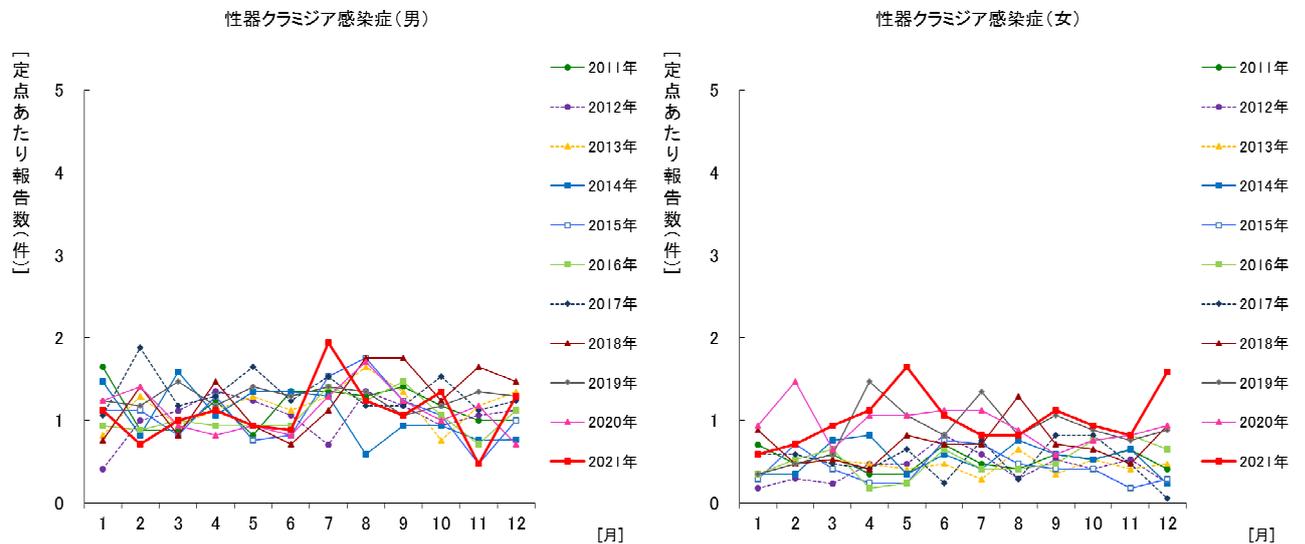
## 23. 性器クラミジア感染症

令和3(2021)年の総報告数は430件(男223件、女207件)でした。令和2(2020)年の420件(男226件、女194件)と比較すると、男性、女性ともにほぼ同様でした。性別毎の報告数全体に占める性別年齢階級別では、20歳代は男性が39.0%、女性が65.7%、30歳代は男性が27.4%、女性が17.9%でした。

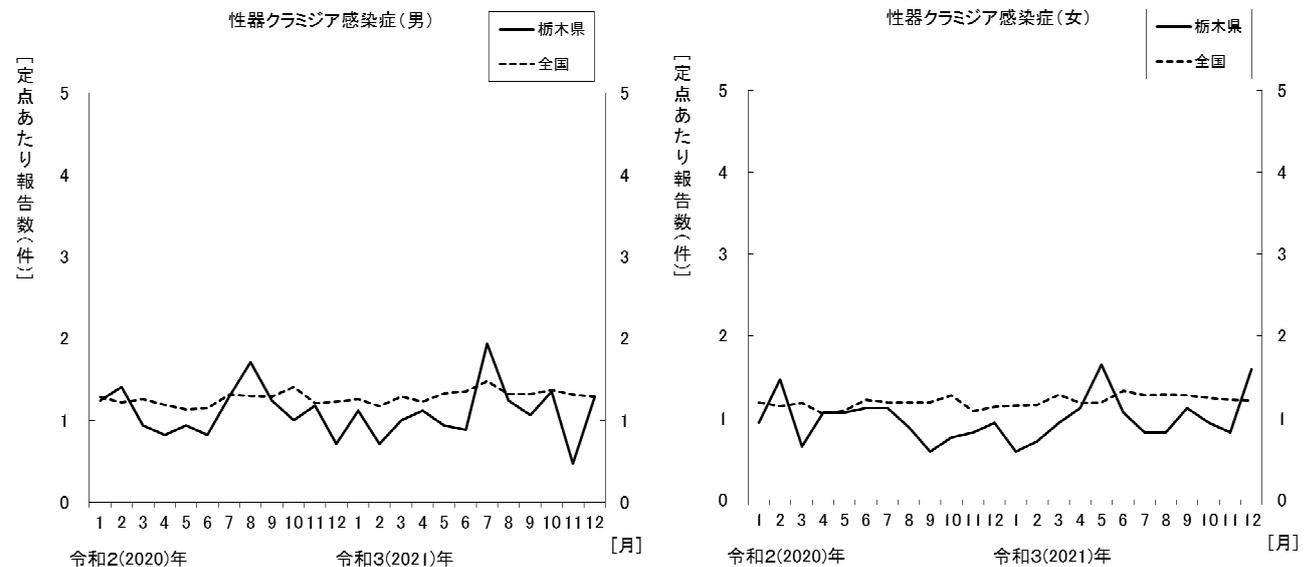
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県25.29、全国30.53で、全国と比較して0.83倍とやや低い水準でした。

男性は栃木県13.12、全国15.74で、全国と比較し0.83倍とやや低い水準、女性は栃木県12.18、全国14.80で、全国と比較し0.82倍とやや低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



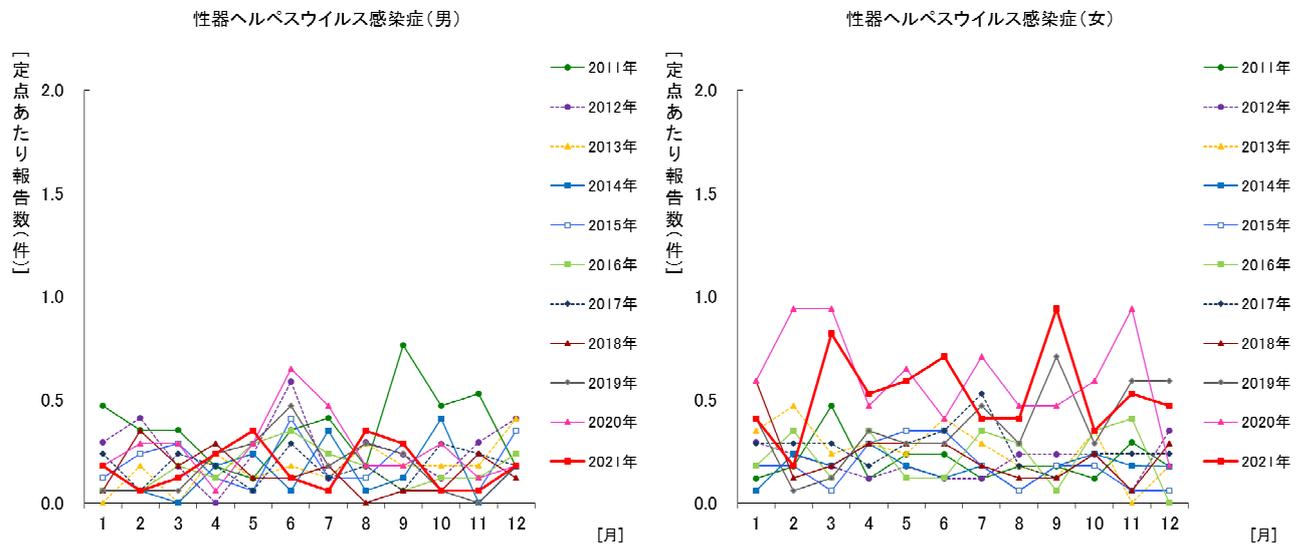
## 24. 性器ヘルペスウイルス感染症

令和3(2021)年の総報告数は143件(男35件、女108件)でした。令和2(2020)年の179件(男54件、女125件)と比較すると、男性はかなり減少、女性はやや減少しました。性別毎の報告数全体に占める性別年齢階級別では、20歳代は男性が11.4%、女性が36.1%、30歳代は男性が28.6%、女性が31.5%でした。

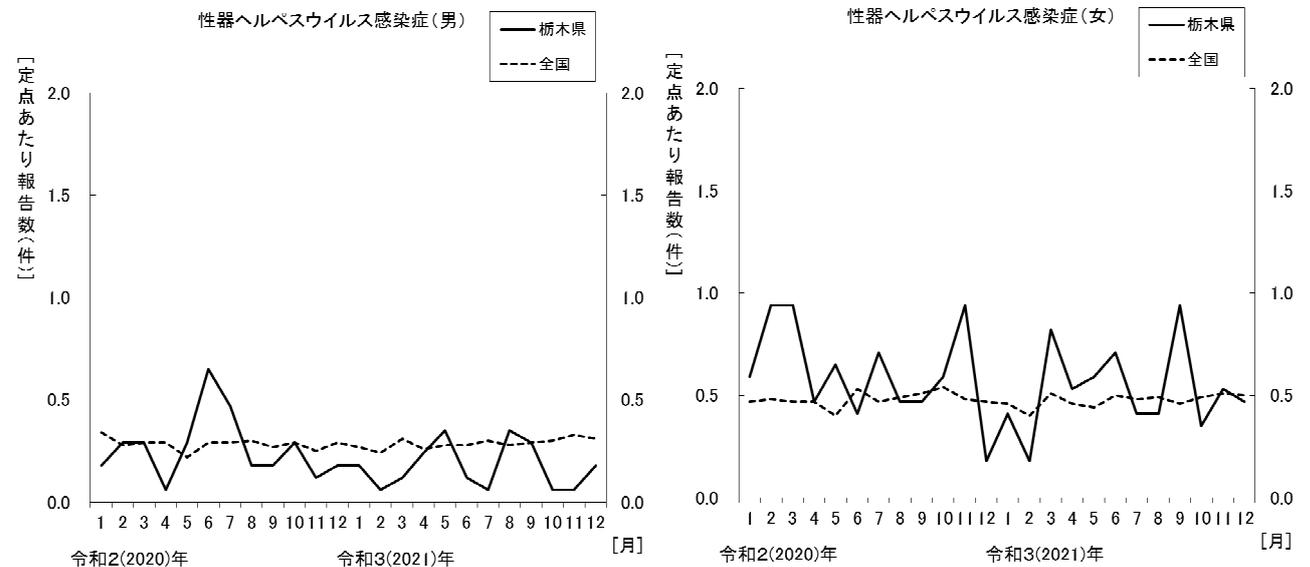
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県8.41、全国9.14で、全国と比較して0.92倍とほぼ同様の水準でした。

男性は栃木県2.06、全国3.45で、全国と比較し0.60倍とかなり低い水準、女性は栃木県6.35、全国5.70で、全国と比較し1.11倍とやや高い水準でした。

### 定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



### 定点あたり報告数の動向(全国との比較)



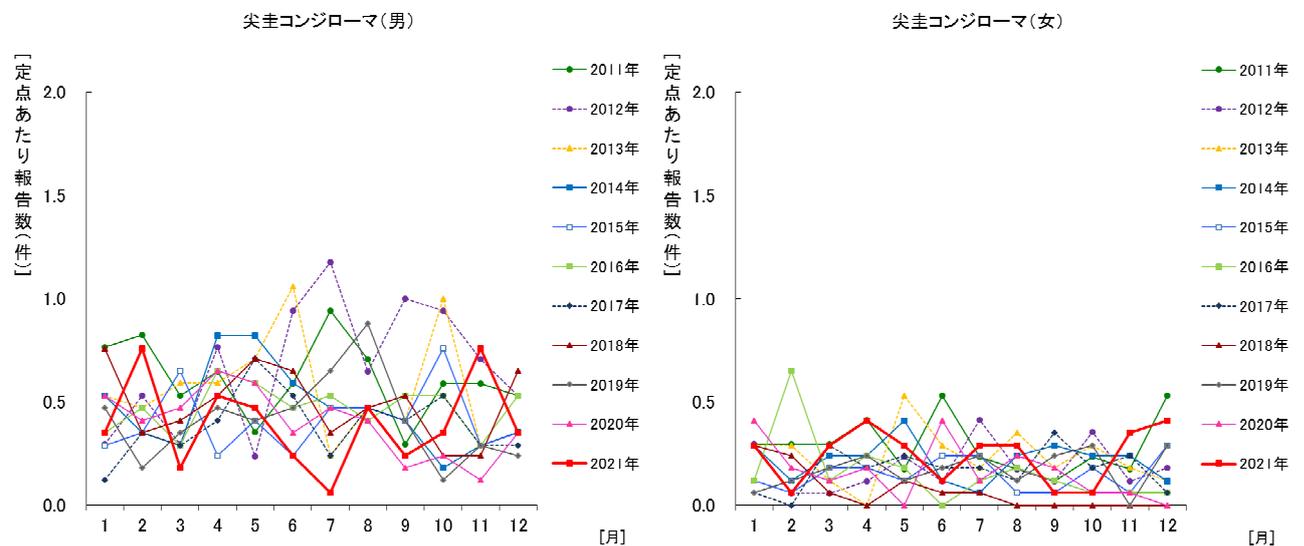
## 25. 尖圭コンジローマ

令和3(2021)年の総報告数は131件(男81件、女50件)でした。令和2(2020)年の114件(男81件、女33件)と比較すると、男性はほぼ同様、女性は大幅に増加しました。性別毎の報告数全体に占める性別年齢階級別では、20歳代は男性が37.0%、女性が78.0%、30歳代は男性が17.3%、女性が12.0%でした。

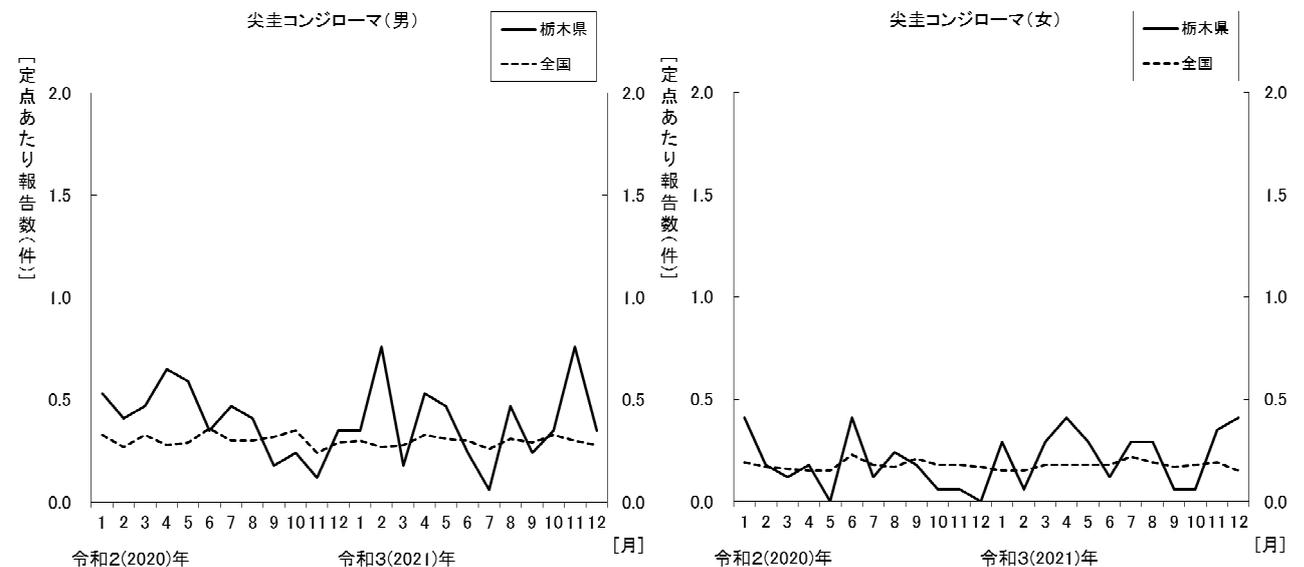
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県7.71、全国5.70で、全国と比較して1.35倍とかなり高い水準でした。

男性は栃木県4.76、全国3.59で、全国と比較し1.33倍とかなり高い水準、女性は栃木県2.94、全国2.12で、全国と比較し1.39倍とかなり高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

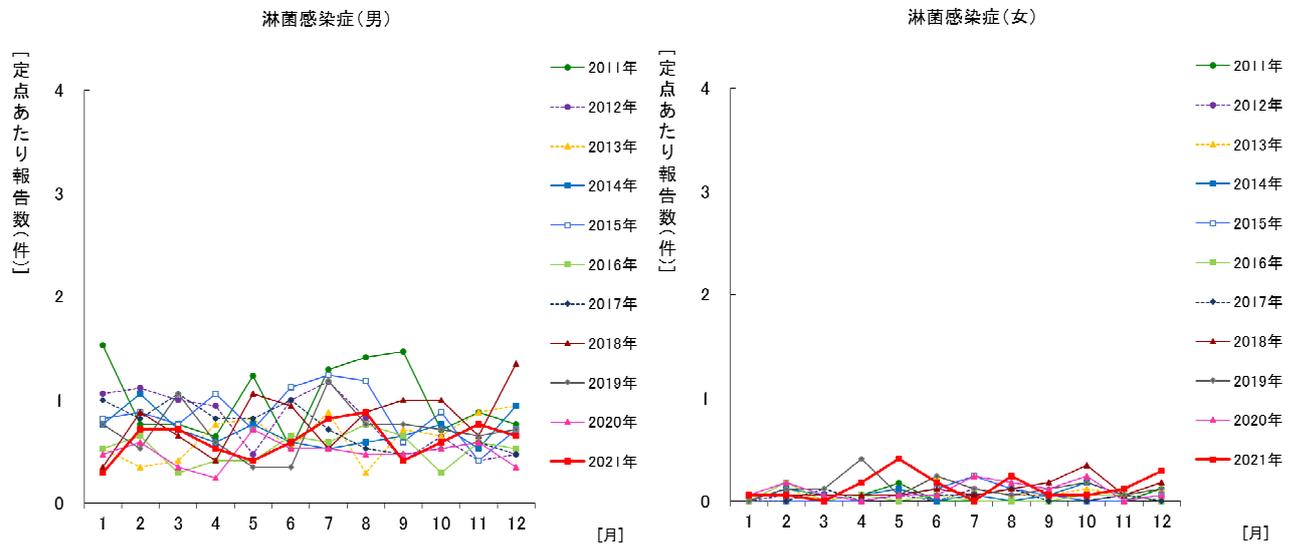


## 26. 淋菌感染症

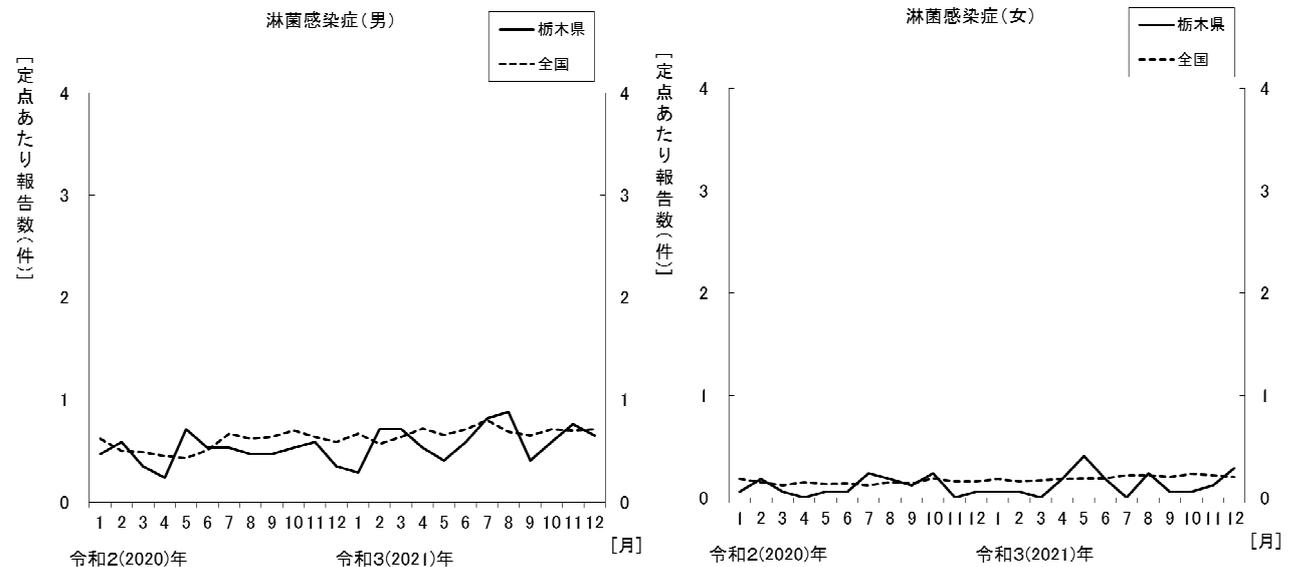
令和3(2021)年の総報告数は153件(男125件、女28件)と、報告の81.7%を男性が占めました。令和2(2020)年の120件(男99件、女21件)と比較すると、男性、女性ともかなり増加しました。性別毎の報告数全体に占める性別年齢階級別では、20歳代は男性が32.0%、女性が64.3%、30歳代は男性が30.4%、女性が14.3%でした。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県9.00、全国10.60で、全国と比較して0.85倍とやや低い水準でした。

男性は栃木県7.35、全国8.24で、全国と比較して0.89倍とやや低い水準、女性は栃木県1.65、全国2.36で、全国と比較して0.70倍とかなり低い水準でした。  
 定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



### 定点あたり報告数の動向(全国との比較)



<主な本文出典>

感染症サーベイランスシステム (NESID)

・全国定点報告数

令和3(2021)年:公開データ(年報)【2022年3月5日作成】

令和2(2020)年:公開データ(年報)【2021年10月30日作成】

・栃木県定点報告数(週報)

令和3(2021)年:公開データ(週報)【2022年1月7日作成】

令和2(2020)年:公開データ(週報)【2021年1月8日作成】

・栃木県定点報告数(月報)

令和3(2021)年:公開データ(月報)【2022年1月17日作成】

令和2(2020)年:公開データ(月報)【2021年1月18日作成】